

関ヶ原

BOOGIE★WOOOGIE

〜小早川の場合〜

作 小川大二郎

小早川 秀秋

小早川家当主。秀吉の養子から小早川家の養子へ。18歳

平岡頼勝

小早川家家老。秀秋に最も近い家臣。東軍派

稲葉正成

小早川家家老。東軍派

松野重元

小早川家家臣。西軍派

山口正弘

小早川家家臣。西軍派

徳川家康

東軍大将。

黒田長政

東軍派の大名。黒田如水の息子。

大久保猪之助

黒田長政の家臣。秀秋の見張りとして派遣される

石田光成

西軍指揮官。大将ではない。大将は毛利輝元

島左近

光成の家臣。強い

大谷吉継

大谷刑部とも。光成に忠誠を誓った大名。ハンセン病の顔面を覆っていた

脇坂安治 (やすはる)

小早川と一緒に西軍を裏切った4武将の一人

朽木元綱 (くつきもとつな)

小早川と一緒に西軍を裏切った4武将の一人

赤座道保 (あかざみちやす)

小早川と一緒に西軍を裏切った4武将の一人

小川祐忠 (すけただ)

小早川と一緒に西軍を裏切った4武将の一人

淀君

西軍派 秀吉の側室。秀頼を生む

おね
(ねね) 北政所

沙耶

東軍派 秀吉の正室。秀秋の養母
ねねの付き人

古満

西軍派 秀秋の正室。毛利輝元の養女

風花
穂花

くのいち。淀の配下
くのいち。淀の配下

影 鷹

秀秋の影武者？
家康の鷹 サブロウ

運命とは、かくも儚きものである。
全ての運命は過去の流れより作られているのであります

時代は安土桃山の慶長5年。西洋の暦で言うところ1600年。
現在から407年の昔。

私たちの運命も、この時から方向付けられたといっても過言ではありません。

場所は美濃国、現在の岐阜県。不破郡関ヶ原

ここで行われたのが、皆さんご存知の、天下分け目の大合戦

そう。関ヶ原の戦いでございます。

豊臣秀吉死後の政権を巡って争われた徳川家康を中心とする東軍、

そして石田三成を中心とする西軍の決戦。それが、関ヶ原の戦い。

この戦いで勝利した家康は政権を完全に掌握し、現在の日本の礎になる江戸幕府を作ったのであります。

さて、ここまでは大人であれば大体はご存知のはず。

しかししかし、この合戦の運命を握っていたのは家康でも光成でもありませんでした。

ご存知の方はご存知のはず

この合戦の運命は全て若干18歳の若者が握っていたのであります。

その若者の名前は、小早川秀秋。

去る武将の家で生まれたこの若者、養子をたらいまわしにされ、気が付けば中納言になり、

気が付けば朝鮮出兵の大将となり、気が付けば小早川家の当主となっておりました。そして9月15日、気が付けば彼は関ヶ原の戦いの運命を握っていたのであります。関ヶ原の運命を握るといふことは、それすなわち現在の私たちの運命を握っていたのであります。

皆様にご覧頂くのは、勇敢な戦いでも、ひりつく男の駆け引きでもありません。期待してお越しくださったお客様、お出口はあちらでございます。

ここでご覧になるのは18歳の若者のたたのわがまま奔放ぶりでございます。それでもよろしいですか？よろしいですか？

……ありがとうございます。

それでは、見ていただくようではありませんか。

ここは関ヶ原の松尾山。いわずと知れた小早川陣内

場所の確認はお手元のパンフレットのページをご覧ください

時間は夜明け前。

前日から陣を張っていた小早川家は、ただ、東軍が通り過ぎるのを待っていただけなのであります。

9月15日夜明け前

1600年9月15日未明

松尾山 小早川秀秋陣内。秀秋陣内

寝ぼけ眼の秀秋を頼勝が起こす

頼勝

殿・・・殿・・・殿！

秀秋

むにむに・・・(寝言オフ)

頼勝

殿！

秀秋

はい?!はい・・・何?もう朝?

頼勝

まだ未明にございます

秀秋

じゃあ、もうちよつと寝かせてよ・・・

頼勝

そうは行きません。一大事です

秀秋

何?誰か攻めてきたの?(秀秋出てくる)

頼勝

客人が参られました

秀秋

非常識な奴だな・・・誰?

頼勝

それが・・・

光成が出てくる

光成

合戦を前にしてパジャマ姿とは、随分余裕ですな

秀秋

光成!

頼勝

光成殿、待たれよと申し上げたはずじゃ

光成

無礼を承知で入らせていただいた。事は一刻を争う

秀秋

光成・・・そなたが何故ここに？そなたは大垣城のはず・・・

光成

事態が変わりましてな・・・いち早くお目にかかりたくはせ参じた

秀秋

事態って・・・

光成

家康が我らを無視しそのまま大阪城をつくとの知らせが参りました。そこで我ら西軍は

秀秋

関ヶ原にて東軍を待つことに致しました。

光成

せ、関ヶ原って・・・
そう、こちらにござりまする

秀秋

ええー！

島左近が入ってくる

左近

光成殿！西軍の布陣完了いたしました！

光成

おお、左近。待つておったぞ

頼勝

左近殿まで・・・

左近

小早川殿。此度の貴殿のご活躍、期待しておりますぞ

頼勝

しかし、わが軍はまだ・・・

左近

まだ？まだなんと？

頼勝

いや・・・

左近

まだどちらに付くか決めていない等と申されるわけではなからうな

左近、持つている槍で威嚇する

秀秋

ひい・・・

光成

左近

頼勝

光成

左近、中納言殿にそのような振る舞いは無礼であるぞ。
失礼仕った
なんのつもりじゃ
失礼、左近も合戦前で少々気が立っておるのです。中納言殿をどうしようというわけではござらん。しかし、もともと名もなき百姓の子であつた貴殿を、ここまでの大名にしたのは、他ならない亡き太閤秀吉殿のおかげ。我等はその意思をついで家康率いる東軍と戦うのです。もし東軍側に付くというのならば……左近の槍はさぞよく切れることでしょうな

頼勝

光成

脅すつもりか?!
いえいえ、脅すつもりなど……もちろん、今回の戦で勝利した暁にはそれなりのお約束をさせていただきますしよう

約束とは?

関白。関白の座をお約束しましょう

か、関白?!

そんな戯言

戯言ではござらん。我らの主君秀頼殿はまだ齡7つ。天下を治めるにはまだ早すぎる。

秀頼殿が成人するまでの間という条件は付きますが……関白を務められるのは秀秋殿しかないと思っております

関白か……

いかがですか?

……よし、OK!

殿!

何?

慎重に考えてください

だってお前……関白だよ。現代で言うとお統領みたいなもんだよ

秀秋

頼勝

秀秋

頼勝

秀秋

頼勝
秀秋
光成
左近

何ですか現代って。何ですか大統領って！
悩むこと無いだろ。光成殿任せてください
安心致しました。

西軍は3方から東軍を攻め込みます。正面からは我らが。後方からは毛利軍が。

小早川殿には側面から叩いていただきたい。戦いの半ばで狼煙を上げます。

それを合図に一気になだれ込んでください。そうすることにより西軍の勝利は確信的なものになるでしょう

光成

貴殿の采配でこの天下分け目の合戦の勝敗は決します。天下は貴殿の掌中に握られているのです。

秀秋

・・・(拳を見つめる) 天下が・・・私の手の中に・・・

光成

左近

左近

はっ！

光成

あれを

左近

はっ(書状を出す)

光成

(書状を出す)こちらが西軍勝利の際の関白の地位をお約束する書状でございます。

秀秋

こちらにご署名を
誰か、筆とすずりを持って！

頼勝

殿！

秀秋

黙っておれ

松野重元が筆とすずりを持ってくる

松野
秀秋

殿、こちらに
よし。(書状に署名をする)

光成

(受け取って) 確かに。では、失礼仕る

光成、左近去る

関白〜♪ 関白〜♪

秀秋

殿、本気でございますか？

頼勝

もう署名しちゃったもんね〜

秀秋

では、我等は西軍、毛利方につくということでもよろしいのですね

松野

んー、たぶんね

秀秋

たぶんとは？

松野

やつらは昨日まで大垣城におったのじゃ昨日の今日でこの関ヶ原まで来てるなんてはったり

頼勝

じゃ。おおかた、光成と左近だけで参ったのじゃろう。この松尾山の上から眺めて、

頼勝

いざとなったら有利な方に付けばよい

松野

殿、そこまで考えて・・・成長なさいましたなあ・・・

松野

しかし、今書面を交わしたばかりではござりませんか

山口正弘が入ってくる

山口

殿、客人が参られました

頼勝

いま大事な話の最中じゃ！待たせておけ

山口

それが・・・

徳川家康が黒田長政を連れて入ってくる

家康

ほう、合戦前にまだバジヤマ姿とは、余裕ですな

頼勝 家康殿!!
秀秋 ひ・・・い、家康
長政 どうしました？化け物を見るような目で・・・
松野 黒田殿まで・・・
家康 そう、驚くことでもないでしょう。合戦を前にしてご挨拶に伺ったまで
秀秋 挨拶じゃと・・・
家康 そう、先日は西軍の宇喜多、島津と共にわしら東軍の伏見城を落としてくださったそうで・・・
秀秋 いや、それはじゃな・・・鳥居殿が中に入れてくださったらずに・・・
黒田 鳥居殿は無念の討ち死にをなされた。小早川殿が加勢をしてくださいれば、鳥居殿はまだご健
秀秋 在だったはず・・・
家康 だからそれは・・・
秀秋 よりによつて西軍に加勢をするとは！
松野 ひい・・・
家康 殿、それを言いにはわざわざ参ったのか？
松野 殿、慌ててはなりません。まずはそれが半分。
家康 殿、残りの半分とは？
頼勝 家康殿率いる東軍は、小早川殿の伏見城侵略を無かつたものにするに致しました
黒田 へ？
秀秋 伏見城の陥落は小早川殿の事を西軍の一派と勘違いした鳥居殿のせいもある
黒田 そうなのじゃ・・・あれは鳥居殿が・・・
秀秋 だからといって、秀秋殿が西軍に加わったという事実には変わりはない・・・
松野 黒田殿、何が言いたいのですか
家康 わかっておるじゃろう・・・此度の合戦・・・ぜひともわが東軍に加わっていただきたい
そうすれば、全てを水に流そうではありませぬか

頼勝 家康
秀秋 黒田
松野 秀秋
秀秋 松野
松野 秀秋
家康 秀秋
黒田 黒田
松野 秀秋
頼勝 松野
秀秋 松野
黒田 秀秋
秀秋 黒田
黒田 秀秋
秀秋 黒田
秀秋 黒田
秀秋 黒田

なるほど・・・そういうことですか・・・
もちろん、ただでとは言わん。この合戦の東軍勝利の暁には、更に上方の二国を治めていた
きたい。

二国も?!

これ以上無いお話でしょうか?

・・・よし。OK!

は?

東軍に味方する

殿!

だって国欲しいじゃん

それでこそ小早川殿。賢いご選択ですぞ

そうだろ。わしは賢いのじゃ

では、こちらがお約束の書状でございませう。署名をいただけますでしょうか

殿、よく考えてください

よく考えておる!

松野、止めるでない

しかし・・・

(署名しようとするが)・・・んー・・・

どうなさいました?

んー・・・

何か問題でも?

関白・・・

は?

関白・・・

頼勝 ちよ、ちよつと・・・殿?!
秀秋 なあ、家康。ここにわしを関白にすると書いてもらえんか?
家康 何ですと?
頼勝 殿、何を・・・
秀秋 さつきここに光成が来てのお・・・
家康 光成が?
松野 それを言つては・・・
秀秋 西軍に付いた場合、わしを関白にすると書いていったのじゃ
黒田 関白ですと?
秀秋 上方の二国と更に関白を約束してくれば、わしは間違ひなくそなたたちの味方になるんじ
家康 やがなあ・・・
秀秋 ・・・・(ふるふる)
頼勝 なあ、どうじゃ?そちの力なら簡単じゃろ?
松野 殿、それ以上は・・・
秀秋 言わない方が・・・
黒田 なあなあ、わしが味方になればこの合戦は東軍の勝ちじや。そちにとつても悪い話ではな
家康 ろう・・・
秀秋 ・・・・
家康 どうかのお?
秀秋 この・・・(秀秋をぶん殴る) 小童があ!
秀秋 ひい・・・痛い
黒田 家康殿、落ち着いてください
家康 下手に出ておれば調子に乗りおつて!わしが下手に出ておるのはそちが中納言だからじゃ!
秀秋 そうなれたのもそちが秀吉殿の養子だったから。今やそちは小早川。ただの一大名じゃ

秀秋　ごめんなさい・・・ごめんなさい・・・
家康　朝鮮出兵の後の恩を忘れたか？秀吉様のお怒りを静めてやったのは誰じゃ？
秀秋　い、家康・・・じゃ・・・
家康　その恩を忘れて更に関白じゃと？この若造が！
秀秋　ひい・・・ぶたないで
家康　これから合戦が始まるのじゃ。間違った方につけば痛いだけでは済まんぞ

頼勝　松野刀を抜く

松野　家康殿！我が陣内でそれ以上の無礼は許しませぬぞ！
黒田　（刀を抜く）刀を納められよ！
家康　騒ぐでない。・・・よいか秀秋殿・・・わしはそなたの為に申しておるのじゃ
秀秋　もう嫌だ・・・合戦には参加しない。おぬしらが向こうでやっておればよいのじゃ
家康　（ため息）わかっておらんようじゃのう（秀秋の首根っこをつかみ、見渡せる場所へ）
秀秋　合戦場は目の前じゃ。おぬしは逃げることは出来ん。
家康　霧でよく見えない・・・暗いし・・・
秀秋　間も無く夜明けじゃ。そうすれば見えるじやろう。・・・どちらに付くか、わかっておるな？

日が昇り始める。と同時に立ち込めていた霧が晴れる。
松尾山から関ヶ原の一面が見渡せるようになる
すでに西軍、東軍共に布陣が完了していた。天下分け目の戦の始まりである

秀秋　あ・・・ああああああ！！

【暗転。オープニング】

第一場

弁士

さてさて、時間は卯の刻。現在の時間で言うと午前7時。いるはずのない両軍を目の当たりにした小早川家一同は頭を抱えて悩んでおりまして・・・

午前7時。関ヶ原の合戦開始一時間前

真ん中にバジヤマから甲冑を着た秀秋が座っている

左に平岡頼勝、稲葉正成 東軍派

右に松野重元、山口正弘 西軍派

膨れっ面の秀秋。

頼勝

松野

稲葉

松野

頼勝

山口

稲葉

むむむ・・・東軍は上方の二国

こちらには西軍は関白・・・

ここはやはり、先に書状をかわした西軍との約束を果たすべきではないでしょうかねえ
何を言ってるのだ。我らはもつと前に東軍に寝返る話だっただろう

しかし、目の前に広がったこの布陣を見よ。固まっているだけの東軍に対して

西軍はこれ以上無いほどきれいにしかれた鶴翼の陣。勝利は西軍のものだ

あくまでそれは我が小早川軍が西軍に付いた場合の話。我らが東軍付けば片翼の折れた鳥

は飛べなくなるまでじゃ

西軍を裏切れば真つ先に大谷軍に攻め込まれますよ

弱気だねえ。ここは山の上。攻め込まれたとしても返り討ちにしていいんだよ

等と家臣たちが喧々譁々やっている。

秀秋

ねえ・・・

家臣たち無視して話し合い

秀秋

ねえ・・・

無視

秀秋

ねえってば！

何ですか！

早く決めてよ

頼勝

殿・・・それはこちらの言葉でございませぬ。そもそも、殿が両方と約束してしまつたから

秀秋

このような話し合いになつたのでございませぬぞ

松野

だつて、しょうがないじゃん・・・

秀秋

簡単なこと。殿が西軍に付くと一言おっしゃつていただければ済む話でございませぬ

稲葉

そうか・・・簡単だな

秀秋

いえいえ、東軍でございませぬよ。殿、東軍に付くとご決断くださいませ。

山口

殿を殴つた家康になど付いくのはどうかと・・・

頼勝

そうだよな。あいつは俺を殴つたからな。やつぱり西軍かな

秀秋

殿、光成殿は決して殿のことを良くは思つてござらん。先々を考えるとやはり東軍です

頼勝

頼勝がそう言うならば東軍かなあ

秀秋

平岡殿！何を根拠にそのような事を！

松野

平岡殿！何を根拠にそのような事を！

頼勝 山口 頼勝 稲葉 松野 頼勝 山口 頼勝 松野 稲葉 松野 稲葉 山口 頼勝 山口 秀秋 山口 秀秋 松野 秀秋 松野 秀秋

根拠？根拠と申すならばそちらも西軍に付かねばならぬ根拠を申してみよ

家康は殿のことを殴ったんです。良く思っていないのは家康の方かと・・・

家康殿の恩を忘れたのか？朝鮮出兵後、太閤殿に滅封された小早川家の領地を元に戻してくださったのは家康殿じゃ。家康殿無くしてこの1万5000の兵は有り得んだ。ならばこの1万5000の兵は家康殿のために使うのが当然じゃ。

そうだそうだ。小早川家の利益を考えれば東軍だ

この戦、元々は西軍として出兵しているのだ。

西軍としてではない。たまたま伏見城に行ったら西軍扱いをされてしまっただけのことじゃそれならば最後まで西軍で貫き通すべきですよ。それが武士であるかと・・・

いまは武士道よりも小早川家の反映を考えるべきだ

待て待て。まず考えなければならぬのは亡き太閤殿の後を継がれた秀頼様のことであろう

我々は秀頼様のために戦うのだ

では、松野殿は秀頼様のために西軍に付けといるのか

当然であろう。西軍の総大将、毛利輝元殿は亡き太閤殿に代わって天下を取ろうとしている家康を討つために動かれていますのだ

その輝元殿は何処にいるのかな？ここ関ヶ原に来ていないではないか。来ているのは息子の秀元殿だけで、西軍の対象は実質的に石田光成だ。

だからどうしたというのだ？西軍の大義名分に変わりは無い。

その通り。我々は秀頼様のために戦うべきかと・・・

違う！

え・・・

わしは秀頼のために戦うのではない！

しかし殿・・・

うるさい！どちらに付くかはわしが決めるのじゃ！

頼勝

では殿、決めてください
へ？

秀秋

どちらに付くのか
それは……

頼勝

まもなく戦が始まります。このままどちらに付くかはつきりさせなければ両方から攻撃され
るかも知れませんぞ。

秀秋

それは困る

山口

そうされないためには、我々の意思をはつきりさせておくことが大切かと……

秀秋

わかっているけどさあ……

頼勝

さあ、決めてください

秀秋

うう……考えてくる

頼勝

秀秋、寢所の中へは行ってしまおう

こまったものじゃ
殿はまだ若い……決断せよというのも酷な話だ……

松野

場所が変わって松尾山の麓。こちらにも四つの陣がはってありました。

弁士

舞台右手から脇坂安治、朽木元綱、小川祐忠、赤座道保の四人の陣であります

場面変わって松尾山の麓、4人の武将が陣を張っていた。

脇坂安治、朽木元綱、小川祐忠、赤座道保である

脇坂 静かだな・・・
朽木 ああ・・・静かだ・・・
小川 これから合戦が始まると思えんな・・・
朽木 ああ・・・思えん・・・
赤座 ここに今20万人集まってると思うとわくわくするな
朽木 ああ・・・わくわく・・・いや、わくわくはしないだろ

そこへ大谷義継が来る

大谷 変わりは無いか？
脇坂 大谷殿！見ての通り、動きはござりません。
大谷 そうか
小川 大谷殿、この後はどうなる
大谷 私にもわからん。しかし、どちらかが動けばそれが合図で一斉に全軍なだれ込むだろう
脇坂 脇坂殿、朽木殿、赤座殿、小川殿、お主らの働きにも期待しておるぞ
赤座 おっしゃあ！我々は何か動きがあつたらなだれ込めばよいのですな？
大谷 そうだ。おそらく、目の前の福島正則隊は我々大谷隊に突つ込んでくるだろう。それを側面から叩いてもらいたい。
赤座 かしこまった！腕が鳴りますな
大谷 しかし、もう一つ問題がある。
朽木 問題とは？
大谷 後ろの小早川軍だ。奴らは西軍としてここに来ているがどうも信用できん。
脇坂 正しいですよ？
大谷 東軍に寝返るかもしれん

小川 まさか・・・小早川殿は伏見城を落としてここまで来ているのですぞ。今更寝返るなんて事
油断は出来ん。小早川家臣の平岡頼勝が黒田長政と内通しているという噂もある
大谷 用心に越したことは無い。

朽木 ええ！つまり、我々4隊は前方の福島隊を攻撃しつつ、後方の小早川が裏切った場合、そ
らも食い止めるというわけですか？

大谷 その通り。まあ、小早川が裏切るといふのはあくまでも仮の話。予定通りならば協力して
東軍を側面から叩き潰せばよいのだ。

朽木 ・・・・大谷殿、もしですぞ、もし仮に福島隊が我々に突っ込んできたとしましよ
おお

そうなたった場合、我々は福島隊と戦いになる

そうしたらわたしの軍が福島を側面から攻めればよい

そこまでは問題ありません。しかし、それで更に小早川が裏切ったら？

ん？

いや、だから正面から福島の手をしているときに小早川が裏切って攻め込んできたら？

うん。挟み撃ちだね

挟み撃ちだねじゃないでしょ。私達全滅じゃないですか。

大丈夫だよ。たぶん

たぶんで何ですか、たぶんで

いいじゃないか！挟み撃ち上等！両軍とも全て叩き切ってやるわ！

頼もしいな

大谷殿。西軍は私たちが捨て駒にするおつもりか？

いや、おぬしらをここに配置したのはわたしの意思だ

では、大谷殿は私たちのことを捨て駒とお考えなのか？

そんなことは誰も言っておらん。4隊とも西軍の大事な戦力の要と考えておる。良いか。

大谷

脇坂

大谷

脇坂

大谷

赤座

朽木

朽木

大谷

朽木

大谷

朽木

脇坂
大谷
小川
大谷

福島隊は必ず私のほうに向かってくる。そうでなかったら福島隊の気がこちらに向くように動くゆえ安心せい

そう願いたい

では、私は自陣へ戻ることには致そう。

ご武運を

お主らも

大谷自陣へ

脇坂

小川

朽木

脇坂

赤座

小川

赤座

脇坂

赤座

朽木

小川

脇坂

小川

脇坂

小川

・・・行つたか。

ああ。行つた。

物凄く張り切つてたね。

ああ。この後しばらく出番無いからな

なんかさあ、あいつ態度でかくない？

確かに。・・・鼻に付くもの言いだ

あいつそんなに偉かつたっけ？

光成殿からは結構信頼されてるようだが

ふん・・・で、どうする？

何が？

何がって、俺たち

どうするとは？

だから、大谷殿が言ったとおりやるのかって？

それしかないだろ

他に方法が？

赤座

俺はいいぜ。戦って死ぬるなら本望だ！だけど・・・お前等兵を何人連れてきた？

朽木

赤座家は600だ

脇坂

私も600人だ

朽木

1000人

小川

お、やるなあ

3人

2100人

小川

おお。

脇坂

今回は頑張って一杯連れてきてみた。

赤座

ちよっと見栄を張った・・・。実は990人です

朽木

まあ10人くらい別にいい。後ろの小早川は1万5000だ。

赤座

マジで？！

朽木

桁が一桁違うんだよ

小川

すげーな

赤座

で、正面の福島隊が？

小川

6000かな

赤座

我々は足しても4300か

脇坂

正確には4290人だ

赤座

どうでもいい。挟み撃ちにあつた場合、勝ちめは薄い

朽木

じゃあ、どうするの？

赤座

だから、それを聞いてるんだよ

脇坂

とりあえず、大谷殿が何とかしてくれる限り福島が正面から突つ込んでくることは無いだろうが・・・

赤座

深く戦つて散るか！

朽木

やだよ。

赤座 何だよ根性の無い奴だな。今ここで斬るぞこら・・・。小川殿と脇坂殿はどうする
 脇坂 確かにここで死ぬのは私としても本望ではない。大事な戦力などと言っておきながら、
 結局は捨て駒だ
 朽木 だろ、俺たちみたいな弱小な家はいいように使われて終わるんだよ
 赤座 だからってグダグダ言っても始まらないだろ。戦って死ぬか、逃げて切腹させられるか
 朽木 どっちかなんだよ
 赤座 どっちも死ぬじゃん
 脇坂 それが運命だ
 赤座 運命か・・・
 朽木 運命だからって殺されてたまるかよ
 赤座 だから戦うんだろ。戦えば何かが変わるかもしれないねえ
 脇坂 むやみやたらと突っ込んで行っただけで、どうにもならんだろ
 赤座 じゃあ、何か方法があるかって聞いてるんだよ！
 脇坂 無意味な攻撃はそれこそ死ぬ運命を近づけるだけだ
 赤座 無意味だ？ いままでの俺たちの戦いにいつ意味があつたつてんだよ
 脇坂 それは・・・
 赤座 いいように使われようがなんだろうが、俺たちは戦うしかないんだよ！
 小川 言い争っている場合ではなからう。少し冷静になれ
 赤座 冷静だつーの！
 小川 一つ方法がある
 赤座 何？
 脇坂 このまま動かずに、しばらく様子を見る・・・
 3人なるほど。

場面変わって、秀秋寝所（小屋）。
秀秋が古満（こま）姫に甘えている。

秀秋

だからな、わしは嫌じゃと言ったのじゃ

古満

わかつておりますよ。殿はお優しいかたですから、戦には向かぬのです

秀秋

そうじゃ、わしにはこんな野蛮な場所は似合わぬ。ああ、城に帰りたい

古満

ええ。早く帰りましょう。殿の一声でこの戦を終わらせてきてくださいませ

秀秋

うーん、しかしどちらに付けばよいのか・・・

古満

殿・殿の奥方はどなたですか？

秀秋

何をいきなり、それは古満、お主に決まっております

古満

その通りでございます

秀秋

だから何だというのだ？

古満

私は、西軍総大将、毛利輝元の養女でございますよ。殿は私の、ご自分の妻の父親に刃を向

秀秋

けるのでありますか？

秀秋

いや、しかし、お主の父上は今回の戦にはおらんではないか

古満

いなくても大将である事には変わりありません。私は殿の優しさが好きでございますよ。

秀秋

妻の父親を討とうとするなど、お優しい殿がなさるはず・・・ありませんよね？

古満

いや、それとこれとは

秀秋

ありませんよね？

古満

う・・・うむ・・・そう・・・だな

秀秋

では、悩まれることなど無いではありませんか？

古満

・・・うむ

秀秋

では、早くこの戦を終わらせてきてくださいませな

秀秋

わかった・・・

古満 お間違いなきよう。小早川軍が攻めるのは徳川率いる東軍ですよ
秀秋 わかっておる！子ども扱いするでない
古満 失礼致しました・・・いつてらっしゃいませ
秀秋 い、行ってくる

秀秋、小屋から出て行く
小屋には古満姫が残る。
松野と山口が入ってくる

古満 良いぞ。入られよ
松野 失礼致します
古満 これでよいか？
山口 申し分ございません。これ以上無い説得だったと・・・
古野 やはりこの戦、古満姫にもご同行いただいて正解でした。
古満 私は私のため、毛利家の為に動いたのじゃ。
山口 ありがたきお言葉
古満 しかし・・・まだ弱い。
山口 は？
古満 また迷われては敵わん。近う寄れ

三人固まって耳打ち

松野 なるほど、それは妙案です
山口 そんな、大丈夫なんでしょうか・・・

松野 黙って着いてくればいいのだ
古満 使えるものは全て使わないと
松野 ふ、古満様が男でしたら、一角の武将になつてゐるやもしれませぬな
古満 女には女のやり方があるのです

一方小屋の外。

秀秋が西軍に付くと言いに来る

秀秋 頼勝、頼勝はおるか？

頼勝 (出てくる) はつ。こちらに

秀秋 大事な話がある

頼勝 ついに、ご決断なさいましたか

秀秋 うむ……我が軍は……ん？誰じゃ？

頼勝以外にもう一人いる

大久保猪之助である

頼勝 殿、こちらは……

大久保 平岡殿、私より申し上げます。

秀秋 誰じゃ

大久保 手前、黒田長政が家臣大久保猪之助でございます。主君黒田長政より此度の合戦、小早川殿

のお手伝いをするように仰せつかりまして、こうして馳せ参じた次第でございます。

秀秋 へ？黒田殿の？

大久保 左様で御座います。

秀秋 どういうことじゃ？

頼勝 殿、ちよっとこちらへ（端っこへ）殿、わかっておいででしょう？

秀秋 何がじゃ？

頼勝 大久保殿の事でございます。

秀秋 一体何を手伝ってくれるのかのお？

頼勝 そうではございますぬ。あれはお目付け役でございます

秀秋 お目付け？

頼勝 そうでございます。我が小早川軍が、約束を破つて西軍に付くことがないように見張りに来たのです。

秀秋 何？！

頼勝 見張りまで立てられてはもうどうすることも出来ませぬ。当初の予定通り東軍に付くしかありませんぞ

秀秋 うええ・・・あのさ、もしそれで西軍に付くことになったら？

頼勝 縁起でも無いことを言わないで下さい。そんな事があつたら・・・

秀秋 あつたら？

大久保 もし！・・・どうなされたのですか？

頼勝 いえ、何でもござらん

秀秋 うん。何でもござらんよ

大久保 何のお話を？

頼勝 いえ、こちらの問題でございます

大久保 まさか、西軍に付こうなどという相談ではありませんな？

頼勝 いや・・・まさかそんな・・・

大久保 私は、西軍に攻める為のお手伝いに参つたのでありますぞ
はい・・・

大久保　それが西軍の味方をするとなれば・・・わかつておるでしょうな？

大久保、素早く刀を抜く。

頼勝　大久保殿、落ち着かれよ！

大久保　むん！

大久保、刀を大きく振り上げる

秀秋に切りかかると思いきや切つ先を

自分の腹へ

大久保　無念じゃあ！（切腹しようとする）

秀秋　ちよ、ちよつと何やつてるの

頼勝　大久保殿お！

秀秋、頼勝必死で止める

大久保　死なせて下されえ

秀秋　何で？何で死ぬの？！

頼勝　大久保殿、落ち着いてください

大久保　小早川殿が西軍に付いたら、拙者は長政様に合わせる顔がござらん

頼勝　だれも西軍に付くなどと申してはおりませぬ

秀秋　そうだよ、言つてないよ

大久保　何と。本当か？

頼勝
本当じゃ

大久保
では、拙者の早とちりであつたか（刀を納める）

秀秋
早とちりにも程があるよ

大久保
これはかたじけない。みつともないところをお見せしてしまつた

頼勝
こんなところで死なれては黒田殿に何と言えばよいか・・・

大久保
では、小早川殿お頼み申し上げます。光成の奴に目に物見せてやろうではありませぬか

秀秋
う・・・うむ・・・

頼勝
これで後には戻れませぬな。殿、ご決心ください

秀秋
少し気分が悪い・・・一人になりたい・・・

大久保
いけませんな。合戦前だというのに・・・

秀秋
しばらくすれば治ります。

秀秋、ふらふらと立ち去ろうとする

ついて行くこうとする2人

秀秋
ついてこなくて良い。一人になりたいのじゃ

立ち去る

大久保
緊張なさつておいでか？

頼勝
それだけなら良いが・・・

大久保
平岡殿の合戦前からの画策。長政様も大変感謝しております

頼勝
私は小早川家の為に動いているだけですじゃ

大久保
東軍勝利の暁には、きつと明るい未来が待っていることでしょう

頼勝
大久保
頼勝
大久保
頼勝
稲葉
頼勝

まだ甘い・・・
は？

また決断を覆されては敵わん

まさかそんな・・・

あの殿のことじゃ・・・稲葉はおるか！

呼びましたかな

うむ。実はな・・・もっと近くに・・・

頼勝、稲葉に耳打ち

7時50分。合戦の開始10分前

松尾山麓。4将の陣内。

赤座
朽木
脇坂
朽木
脇坂
赤座
朽木
赤座
朽木
小川
朽木
赤座

まだか

何が？

まだ始まらないの？

知らないよ

少し落ち着け

あー、いらいらする。朽木殿ちよつと見てきてよ

やだよ

いいじゃん

やだよ。死ぬかもしれないじゃん

いいではないか

良くないよ

大丈夫だって

朽木

全然大丈夫じゃないって

脇坂

兵士に行かせればよいであろう

朽木

あ、そっか

小川

頭を使え

朽木

な・・・じゃあ、お前たちの兵士に行かせれば・・・

赤座

いいから行かせろよ！斬るぞ

朽木

何だよ・・・おい、お前、ちよつと前線の様子を偵察して来るのだ。ああ、後どれくらいで動き出しそうとか・・・そう・・・そうだ。何？ああ、それも頼む。よし、行つて来い！

・・・ほら、行かせたぞ

誰と話してたの？

赤座

いや・・・兵士と・・・

朽木

誰もいないではないか

小川

だから・・・あの・・・いるつもりで・・・

朽木

つもりって・・・馬鹿にしてんの？おまえマジで斬るぞ

赤座

だから！兵士とか全員出せないから、いるつもりで話してるっていう設定でしょ！

朽木

は？

赤座

芝居の嘘じゃん！

朽木

設定とか嘘とかいうなよ。冷めるじゃん・・・

小川

がっかりだ

朽木

もういいよ！（いじける）

脇坂

2人とも、あまりいじめるな

赤座

血が騒いじゃってさあ

朽木

だからって俺をいじくることないだろう

脇坂

戦が始まっても我々が動くのはまだ先だ。大きく構えていれば良いのだ（立つ）

脇坂

戦が始まっても我々が動くのはまだ先だ。大きく構えていれば良いのだ（立つ）

小川

どちらへ？

脇坂

自分で言ったのはいいが、さすがに緊張してきた。小便を・・・

小川

何？

脇坂

小便を・・・

小川

小便とは・・・おしっこのことか？

脇坂

あ、ああ・・・

小川

どこでするつもりだ？

脇坂

いや、その裏で

小川

その裏でおしっこをするのか？

脇坂

はい・・・

小川

よし、私も一緒にしよう

脇坂

それはちよつと

小川

何故だ？一緒に小便をするだけではないか。

脇坂

それはそうだが・・・

小川

我々は同じ目的で結ばれたで結ばれた戦友だ。一緒に小便をして絆を深めようではないか

赤座

じゃあ、俺も

朽木

俺も！

脇坂

ええつと・・・

3人

四人、一列に並んで小便をしようとするが、

小川

脇坂は3人の視線が気になってできない。

脇坂殿、

さあ！

3人

さあ！

脇坂 やっぱり出なくなつた！
赤座 そんな事ないだろう。なんだ、鎧が邪魔か？
朽木 脱がすの手伝うか？
脇坂 やめろ！触るな

脇坂、列から離れる
と、奥に人影を見つける

脇坂 誰だ？何者だ！

声に気付く3人

朽木 どうした？
脇坂 いま奥に怪しいやつがいた
赤座 怪しい奴だと？
脇坂 敵の忍びの者かもしれん。捕まえてくる
小川 とか言つて、本当は一人で用を足しに行くのではあるまいな
脇坂 違ふ。確かにいたのじや。行つて来る
朽木 気をつける。一人で平気か？
脇坂 忍び一人にやられるような脇坂安治ではない

脇坂奥へ捕まえに行く

朽木 やっぱりおしっこかな？

小川
赤座
脇坂
朽木

さあ・・・見に行くか？
行くか？（見に行こうとする3人）
捕まえたぞ！
あ、本当にいたんだ

脇坂、首根っこを捕まえて連れてくる

【ラーメン屋】（何でもいいです）の格好をした秀秋である

脇坂
秀秋
脇坂
赤座
秀秋
赤座
秀秋
朽木
秀秋
小川
秀秋
脇坂
赤座
小川
赤座

こいつだ、こいつ
あの、違う。怪しいものじゃない
隅っこでこそそそしてやがった
何者だ？
あ・・・ごめんなさい（去ろうとする）
待て！何者だと聞いていんだ
怪しいものではないのだ
その格好が十分怪しいぞ。忍びの者か？
違う。
兵士か？何処の軍のものだ？
兵士というか・・・
何処の軍のものだ
（ボソ） 来来軒です
聞こえねえんだよ！
来来軒です！
来来家？！・・・知ってるか？

朽木
赤座
脇坂
秀秋
脇坂
秀秋
脇坂
朽木
秀秋
朽木
脇坂
秀秋
朽木
秀秋
小川
4人
秀秋
赤座
秀秋
小川

ておる小川祐忠と申す

同じく、朽木元綱です

同じく、赤座道保です

私とは太閤殿の茶会にて一度お会いしたことがあります、覚えておいででしょうか？

ええ。脇坂安治殿であらう

中納言殿に再びお会いできるとは光栄にございます

ああ・・・どうも

話は戻りますが小早川殿、何故このような場所に？もうすぐ合戦が始まるのですぞ

それはそうなのだが・・・

もしや偵察ですか？

まあ・・・そんな感じで・・・

おお！指揮官自ら偵察とは！素晴らしい

ということは、もしやその格好は自らのご身分を隠すためですか？

え、ええまあ

さすがだ！斬新だ！

そうですか？

デザインはだれが？

誰がといえは・・・まあ、私になるのかな

おお！

そんなに驚くほどのことでは・・・

いや、すげーよ

あ、ありがとうございます・・・

（秀秋の手をがっちり掴んで）小早川殿、お一人でも勇猛果敢に偵察に出られるその勇氣
まだお若いのに敵を欺かんとするその卓越した発想に我々は大変な感銘を受けました。

秀秋
はあ

赤座
あんたやるなあ

脇坂
小早川殿、安心致しました。実は、正直私たちはこの戦、どのように動けばいいか

ずっと迷っていたのです。

迷っていた？

脇坂
そう。少ない兵でどのように戦えばよいかと……。

秀秋
はあ……。

脇坂
天下分け目の合戦などとは言われておりますが、実際私たちには何の関係もない

秀秋
あ……それなら私も……。

脇坂
だが！声がかければ我々のような弱小な家は、少しでも名を上げるために私財を投げ打って

兵を集め、出兵せねばならぬのです

そう。これが結構大変でさあ……。

朽木
今回も西軍から声がかかり出兵したのはよいが、犬死してしまつては元も子もないわけで

脇坂
それで……私にどうしろと……。

脇坂
しかし！あなたがこちらに付いていければ、もはやこの戦我々の勝ちでございましょう。

朽木
そうだな。なんてつたつて1万5千だからな。よし。俺はあなたに付いていく

小川
某もこの命、秀秋殿に預けましょう

秀秋
ええ？

脇坂・赤座
同じく

秀秋
え？いいんですか？そんな簡単に決めて

赤座
簡単ではない。俺はあんたの勇敢さと勇氣に惚れた！

秀秋
え？なんか照れるなあ……。

赤座
俺達の大将はあんただ。早く自陣に戻って、指揮を執ってくれ

脇坂
そうですね。戦が始まったときに大将がいらないのでは格好がつかみませんか

秀秋
小川
秀秋
脇坂

そのことなんだけど・・・
どうなされた？偵察が不十分でしたかな？
ああ、いや・・・
では、早く・・・

鉄砲の音。

朽木

あ、始まつちやつた

弁士

時間にすると辰の刻。現在の時間で言うと午前8時
2時間近く対峙していた両軍でありましたが、痺れを切らせた松平忠吉と井伊直政が、
先方を任されていた福島正則の間をすりりと抜けて前方の宇喜多家の陣へズドンと一発！
これがきつかけとなり、ここに世にも名高い関ヶ原の戦いの火蓋が切つて落とされたので
ありました。
血気盛んな武将たちは、手柄をたてんと両軍入り乱れての大合戦
しかし一方で、大将のいない小早川陣営はと申しますと・・・

9月15日午前8時

東軍の松平忠吉が西軍、宇喜多家隊に向けて発砲、
ここに関ヶ原の戦いの火蓋が切つて落とされた。

暗転

第2場

小早川陣内。

家臣4人と秀秋（影）（黒人とかが素敵）が会議中である
明らかに他人とわかる秀秋に気付かない4人

頼勝 殿、始まりましたぞ。さあ、東軍として攻めると下知してください

影 うん。そうだよ

山口 いやあ、殿、もう一度西軍もお考えになったほうが・・・

影 うん。そうだよ

松野 殿、良くお考え下さい。考えれば最後には西軍が良いという結論になるでしょう

影 うん。そうだよ

稲葉 いやいや、殿。小早川家の利益を考えれば東軍ですよ。

影 うん。そうだよ

頼勝 ……殿？

影 うん。そうだよ

松野 ちゃんと聞いていますか？

影 うん。そうだよ

頼勝 殿、お気は確かですか？

影 うん。そうだよ

松野 ちよつと待て・・・殿、殿のお名前は？

影 ……オレハコバヤカワヒデアキダ

頼勝 殿、少々失礼します

頼勝、秀秋の兜を取る

稲葉 どうわ！誰だお前は

影 ……オレハコバヤカワヒデアキダ

山口 く、曲者、何処から…

影 うん。そうだよ

頼勝 曲者め！殿を何処にやりおった！（抜刀）

影 うん。そうだよ

松野 ……平岡殿、殿にやられましたな。

頼勝 何じゃと？！

松野 謀られたのですよ。おい、（影に）もう行つていいぞ

影 うん。そうだよ

稲葉 影武者とは、やりますなあ…

影 うん。そうだよ

頼勝 もう良い。行け（影に）

影 ……オレハコバヤカワヒデアキダ

頼勝 行けと言つておるのじゃ！（刀で威嚇する）

影 （逃げながら）うん。そうだよ

頼勝 うるさい！行け！

影 （去り際に捨て台詞）オマエラモットハヤクキツケヨ（等）

頼勝 ぬおおおお！

刀を持って追っかけていくが、ダッシユで逃げる影

頼勝 頼勝
松野 松野
頼勝 頼勝
山口 山口
頼勝 頼勝
稲葉 稲葉
松野 松野

えーい！一体殿は何処にいかれたのだ！！
平岡殿が一緒におられたのではないのか？
殿が一人になりたいと申されたのじゃ
は、早く探さないと危険ですよ・・・
わかっておるわ！
臆病な殿のことですから遠くまで行ってないと思えますけどねえ
呑気な事を言っている場合ではない。既に戦は始まっているのだ

大久保が来る

大久保 大久保
頼勝 頼勝
大久保 大久保
頼勝 頼勝
大久保 大久保
山口 山口
稲葉 稲葉
大久保 大久保
稲葉 稲葉
大久保 大久保

平岡殿、始まりましたぞ！
ええ・・・
どうされましたか？
いや・・・
小早川殿のお姿がありませんが？
それが殿はですね、行方不明に+・・・
（山口の口をふさぐ）ああ！何でもありません
行方不明？！
よくあることなんですよ
よくあつたらまずいでしょ！平岡殿、大丈夫でありますか？
ああ、心配ありません。殿さえ見つかれば万事予定通りに・・・
平岡殿、軽はずみな発言は慎んで頂こう。万事予定通りとは東軍に寝返るといふ事あるろう？
我々はまだどちらにつくか決まったわけではない。
何ですと

頼勝

山口

大久保

頼勝

大久保

稲葉

大久保

稲葉

大久保

稲葉

大久保

稲葉

大久保

稲田

大久保

稲田

大久保

松野、今この場でその発言をしなくても良からう！

こういうことは早めにはつきりさせておいたほうが良いかと……
平岡殿どういう事ですか？

それはじゃな……(稲葉に何とかしろの合図)

ちゃんと説明してください

ああ！大変だ！大久保殿、大事な話があるのですが

邪魔をせんで下さい。この話以上に大事なこともありませぬ

いや、きつともっと大事な話だと思っぞ

では、申されよ

……こじやちよつと

私には聞かれてまずい話など無い

私にはあるのです！個人的に……だからちよつとこちらへ……

個人的に聞かれてまずい話って何だ！

言えないからこちらへ来てください (引つ張る)

何かちよつと寒気がするから嫌だ！

いいからこちらへ (引つ張っている)

嫌だ。怖い。絶対嫌だ

松野が後ろから大久保に一撃。

大久保

ぶあ！

大久保気を失う。

松野 始めからこうすればよいのだ。その辺に寝かせておけ

大久保を袖へ

稲葉 絶対大きな勘違いをされたぞ・・

山口 その頑張りだけは認めましょう

松野 さて、これで話が出来ろ。邪魔者がいなくなったところではつきりさせておこうではないか

頼勝 我々は東軍につくということではつきりしたはずじゃ

松野 いっそうなつたのだ？はつきりなどしておらぬであろう

稲葉 大久保殿もきているんだ。東軍につかねば面目が保てないだろう

松野 面目などこの際どうでも良い

稲葉 大久保に何と説明するつもりだい？

松野 ふん・・

山口 最悪斬り捨ててしましましょうか・・

稲葉 何？お前おとなしい振りして大胆なこと言うなあ

山口 殺してしまつてもここは戦場ですから。言い訳など後でなんとかなるか

頼勝 では松野、山口、お主等は西軍に着くべきだと申すわけだな

山口 まあ、そういう感じで・・・

松野 べきなどという言葉では片付けられん。西軍以外は有り得んだ。お主等は東軍についたほうが良いというわけだな？

頼勝 昨日の段階で東軍につくという話になっていたではないか

松野 それは平岡殿が勝手に黒田殿と密約して殿をそそのかしたのではないか

頼勝 勝手にではござらん。私はこの小早川家のことを思つてじゃな・・・

稲葉

そうだそうだ家康殿は我が小早川家を救つてくださったお方だ。ここで恩を返さなければ小早川家は国中に恥をさらすことになるのだぞ

松野

こんなところで口論をしても埒があかん。さっさと殿に決めてもらおうではないか

頼勝

そうしたいのはやまやまだが、殿がおらん

松野

えーい！殿は何処に行かれたのだ

稲葉

探すしかないかと・・

山口

ああ。とにかく手分けをして殿を探すのじゃ。殿お！

弁士

殿を探す家臣一同、しかし、戦は始まっているのであります
ちようど、同じ頃、桃配山に陣を敷く東軍総大将徳川家康
笹尾山に陣を敷く西軍の実質大将石田光成の様子は・・・

桃配山。家康陣内

家康

撃てえい！（ドーン）撃てえい（ドーン）
光成よ。街道一の弓取りと言われたワシの戦、とくと味わえ！

笹尾山。石田陣内

光成

大砲用意、撃てえ！（ドーン）
飛び道具に頼るな。数も布陣もこちらが優位なのだ。家康まで突き進め！
うおらあ！（槍を振り回している）まじろっこしい。まとめてかかって来い！

島

全軍前進！黒田隊など恐るに足らず！（おおー等の怒号）

黒田

構え！、打てえ！下がるでない。数の上では島隊など全く怖くはないのだぞ
撃つて撃つて撃ちまくれえ！

島

ははははあ！どうした？鉄砲はこんなものか？

黒田

下がるな！よく狙え！家康殿！

家康

うむ。竹中軍、加藤軍、細川軍、前進せよ！島軍を囲むのじゃ

石田

ふははは。その程度でうちの左近を倒せると思つたら大間違いだぞ家康

左近

その程度の浅知恵で私の上をいこうなどは片腹痛いわ
殿、任せてください。殿が眠くなる前にこの戦終わらせて見せましょう！うらあ！

石田

頼んだぞ左近。ふはははは

家康

ふん。今のうちにはしやいでおくがよい。（にやり）

松尾山、小早川陣内に戻る

それぞれ「殿！」「秀秋殿！」等と叫びながら秀秋を探している

そこへいつの間にか淀が加わっている

淀

秀秋殿！

頼勝

どうだ？いたか？

山口

いや、こちらには

淀

あちらの方は探したのですか？

松野
淀

はい、先ほど

もう一度探してきなさい

はい

秀秋殿……ほら皆も、ぼさつとしてないで探しなさい

再び各々が探し始めるが、淀殿がいるという不自然さに気付く

淀
稲葉
淀
稲葉
淀
山口
淀
松野
淀
山口
頼勝
淀
稲葉
頼勝
淀
松野

秀秋殿

あの……

何じゃ？見つかったのか？

いえ、まだですが……

では、早くなされよ

あの、淀殿？

何じゃ？

いつこちらに？

今じゃ

そうですか

じゃなくて、淀殿。何故こんなところにいらつしやるのですか！

秀秋殿に話があつての

あなたは秀頼殿と大阪城にいるはずでは……

戦の行方が気になって近くまで来ておつたのじゃ

だからといってこんな危険な場所に……もう合戦は始まっているのですぞ

わかつておる

我々がお呼び立て致した

頼勝

我々だと？

わたしも一応・・・

ということは、話というのは

そう。秀秋殿に、助言を差し上げに参ったのじゃ

おぬし等、そんなことの為にわざわざ淀殿をお呼び立てするとは・・・わかつておるのか！

そんなこととは何じや。平岡殿、天下分け目のこの合戦、勝敗の鍵を握っているのは小早川

家らしいではないか。それをまた若い秀秋殿が迷っておられるというのでわしが決めて差し

上げようと参ったのじや。秀秋殿は良い家臣をお持ちじや

しかし・・・

頼勝

小屋から古満が出てくる

淀様。お待ち申し上げておりました

これは古満姫。しばらくですのお

わざわざお呼び立てし申し訳ありません。

良い良い。全ては豊臣家のためじや

お越しいただいて安心致しました。これで殿のお気持ちは固まるはずでございます

うむ。はやく秀秋殿にお会いしたいのじやが、肝心の秀秋殿がおらん。

え、いないのでありますか

古満姫、心当たりはないか？

そういえば先ほど、奇妙な服に着替えて出て行かれました。偵察に行くとかって・・・

着替えたですって？

あ、さっきのあいつが

稲葉

山口

古満

淀

古満

淀

古満

淀

古満

淀

古満

古満 松野 山口 稲葉 淀 松野 松野 淀 山口 稲葉 松野 松野 淀 古満 松野 頼勝 淀 頼勝 稲葉 淀 松野 稲葉 淀

はい。

あのガキ・・・逃げたか？

そんな馬鹿な

有り得ますな。殿は昔から不安になるとすぐ逃げる癖がある

お待ちなさい。まだお若いとはいへ、秀秋殿はこの小早川家の当主であるお方ですよ。

朝鮮出兵の際も先頭をきって敵を討ちに行かれたのです。逃げるなんてあるわけがないでは

ありませんか。

そうですね

それにご自分の主君をガキ呼ばわりするとは、無礼であろう

失礼致しました

しかし殿は困ったときに必ず逃げますから・・・

うむ十中八九逃げる

いや、十中十逃げる

淀殿、殿は逃げました

あのガキがあ！

淀様、一応わたくしの夫でございます

これは失礼。取り乱しました

だがご安心ください。ここは合戦場でありませぬ。お一人でそう遠くまで行けないでしょう。

うむ。逃げ切るのが無理とわかれば帰ってくると思われませぬ

左様か、それならば先にお主等に申しておく。この戦で小早川家が味方するのは西軍じゃ

何と・・・

私はそれを申しに参ったのじゃ。よいな

いやそれは・・・

何か文句があるのか？

稲葉 淀

いえ・・・
考えてもみよ。秀秋殿はもともと亡き太閤秀吉様の養子であつたお方。その太閤殿が亡くなつた為、家康のような不屈きな輩が天下を我が物にせんと大きな顔をしてのさばつておるのじゃ。太閤様が亡くなつたとはいへ、天下は豊臣家の、太閤様と私の息子秀頼の物じゃ。無礼者の家康を討つのは当然であろう。

稲葉 淀

それは、その通りであります・・・
まだ何かあるのか？秀頼の母である私に反抗するとはそれなりの覚悟があつて申すのであるうな

稲葉

いや・・・

山口 山口

稲葉殿、ここは我々の意見を統一し、西軍に付くということ殿を説得しようではないか
そうそう。私たちが意見を合わせれば殿も迷うことはありませんよ

山口 淀

小早川家は豊臣に従属した家。牙をむくことなどあつてはならぬのです
そうです。豊臣家の為に戦う事こそ儀というもの。

松野 頼勝

恐れ多くも申し上げます

松野

平岡殿！

淀

何じゃ？

頼勝

これは我々小早川家の問題。口出しは、無用

淀

な、何ですと

頼勝

淀殿、このような場所にまでお越しいただいてまでのご意見は承りました。だが我々が従属

していたのは太閤殿であつて、豊臣家ではない。秀吉様亡き今、小早川家がどのように
振舞うかは改めて考えさせていただく

山口 山口

平岡殿、口を慎まれたほうが・・・

淀

何ということ・・・

頼勝

それにここは戦場じゃ。戦場の采配におなごが口を出すなど言語道断である！

山口

頼勝

松野

頼勝

山口

頼勝

山口

淀

松野

古満

淀

松野

ねね

平岡殿

古満姫とて殿のわがままから特別な配慮で連れてまいったのだ。ご自分から来て戦に口を出すなど・・・立場をわきまえられよ！

平岡殿 言いすぎであるぞ

お主らもお主らじゃ！自分たちで殿を説得できぬからといって、他の家の、しかもおなごを使うとは、恥ずかしくないのか！

それはその・・・

見損なつたぞ。この戦が終わつたら対応を考えさせてもらう

そんな・・・

・・・おっしゃることよくわかりました

淀殿？

この戦が終わる次第、豊臣は小早川家に対する態度を考えさせていただきますよう

淀様、待つてください

豊臣は小早川家を敵とみなします。覚えておきなさい

淀殿！待つてください・・・

何を覚えておけば良いのですか？

ねね、沙耶（付き人）を連れて出てくる

ねね・・・様

淀殿、聞いていれば随分なことを言っているじゃありませんか。まるでご自分が

豊臣家の当主になつたみたいですね

ねね殿、どうしてこちらに・・・

助かりました。話があらぬ方向に進んでしまっていて・・・

稲葉

松野

ねね

淀

松野

ねね

ご安心なさい。豊臣が小早川の敵になるなどということはありませぬ

沙耶

ねね様、ここは危険です。早く用事を済ませて退却いたしましょう

ねね

急かすではありませんせぬ。さて、淀殿、お主が何故ここにいるのでしょうか？

淀

それは・・・

古満

私共がお呼び立て致しました。秀秋殿が東軍と西軍どちらに付けばよいか迷っておられた

ねね

のでご助言を頂こうかと・・・

古満

ほう、私を差し置いてですか・・・

ねね

差し置いてというわけでは・・・

ねね

私は秀吉閣の正式な妻でありますよ。その私を通さずに側室の淀殿を呼ぶとはそれなりの理

山口

由がおありなのでしょうね？

ねね

恥ずかしながらこれは小早川家の問題。ねね殿をお呼びするほどではないと思いましたがゆえ

山口

そうですか。では、もちろん東軍に付くように勧めたわけですね

ねね

え・・・

淀

そうなのでしょうか？ちがうのですか？淀殿

沙耶

それは・・・

ねね

ねね様が聞いているのです。お答えください

沙耶

秀秋殿も含め、家康殿や福島正則殿らもすべて太閤様が目につけた武将。私にとつては皆

沙耶

子供のようなものじゃ。その子供たちが争うことなどあつてはなりません

松野

そのとおりでございますね

ねね

それならば、石田殿も同じではありませんせぬか

沙耶

石田光成・・・あれは駄目じゃ。この戦、豊臣家の為に出兵していると申しておるが

沙耶

本当のところは自分が天下をとりたいただけじゃ

ねね

石田光成はねね様に地方で隠居されよと申したのじゃ。とんでもない男です

ねね

家康殿に任せておけば、この国も豊臣のことも悪いようにはせぬ・・・

稲葉 ねね
淀 ねね
山口 ねね
頼勝 ねね
山口 ねね
頼勝 ねね
山口 ねね
松野 ねね
頼勝 ねね
稲葉 ねね
松野 ねね
松野 ねね
頼勝 ねね
淀 ねね

「ごもつともでございませぬ
淀殿、いかがですか？」

「いえ、あの……」

「ねね殿、ねね殿は何故こちらに？」

「私がお呼び立てした
え？」

「殿にご意見していただきたくお呼び致した
ええー！あんたさつき戦におなごが口を出すなみたいな事言つてたじゃんか！
言つたかな？」

「武士として恥ずかしくないのか！
別に……」

「頼勝殿は小早川家のためになあ
見損なつたぞ。おなごがどうか立場をわきまえよとか散々言つておいて結局おなごに
頼つていゝではないか」

「松野殿、おなごが、私が意見するのはいけないのですか？
……つてさつき平岡殿が言つてました
そうなのですか？」

「いや、全然
汚え……裏切り者
これ、仲間に向かつて裏切り者などといつてはいけません。これから一丸となつて西軍を
討つのですから。よろしいですね
はっ
淀殿も、苦勞でした。これで秀秋殿も東軍に付くという決心が出来るでしょう
……はい」

ねね
頼勝 して、秀秋殿はどちらに？
それが、殿は今・・・

秀秋が割烹着姿で横切る。

秀秋 どうも来來軒です。ご注文のラーメンを届けに來ました失礼しマース

とボソツと言つて小屋へ一直線に入ろうとする

頼勝 殿お！！

秀秋 え？殿？

頼勝 何をなさっているのですか

秀秋 いえ、僕は殿じゃないです。

ねね 金吾、その格好は何ですか？

秀秋 いえ、私はラーメン屋でして・・・うげ、母上。あ、今はもう違うのか・・・

淀 何処に行かれていたのですか

秀秋 うわ、淀殿まで・・・

頼勝 殿・・・

秀秋 頼勝、何これ？どうなってるの

ねね 一体今まで何をなさっていたのですか

秀秋 うう・・・頼勝、後は任せた（小屋へ入ろうとする）

ねね お待ちなさい。金吾、今はもう秀秋殿ですか・・・養子には出しましたが、母はあなたの事

ねね をは忘れたことはありません。いつかきつと大きな手柄をたててくれるとずっと期待してい

たのですよ。それなのに何ですかこの格好は

秀秋
ねね

これはラーメン屋といって中国の食べ物で……そんなことを聞いているではありません。母は悲しいです。戦場を放棄してどこかに行ってしまう当主がどこにいますか

秀秋

ここに……

ねね

金吾！
はいっ。いえ母上、私は偵察に行っていたのであります。

秀秋

偵察？
そうであります。天下分け目のこの合戦で私が判断を誤るわけには参りません。お家のため、家臣のためにどうするのが一番良いか調べるために偵察に行っていたのです

稲葉

その格好ですか

秀秋

そうじゃ。私の身分を悟られてしまつてはいろいろとやりにくい故、変装して行つたのじゃ逃げてたな……

山口

ええ、絶対逃げてましたね
逃げてはおらん。偵察に行つていたのじゃ。古満、ちゃんとおぬしに言つて行つたじゃろう

古満

はい。一応はそう聞きましたが……
ほら。

秀秋

わかりました。そういうことにおきましよう
そういうこととは何じゃ。わたしは本当に偵察に……

ねね

そうですね。母は信じますよ。家臣の事も心配できるようになつたとは、成長しましたね
母はうれしく思いますよ。金吾、いえ、もう秀秋殿と呼びましょう。もう悩むことはありません
せぬ。あなたは東軍として戦うのです

秀秋

へ？そうなの？（家臣に）

頼勝

そういう流れになりました
家康殿について、立派に敵将の首を持ってきてくださいいな

ねね

秀秋

・・・はい。わかりました

【ドーン】と大砲の大きな爆発音がする

沙耶
ねね

ねね様、ここは危険でございます。はやく安全な場所へ
秀秋殿、期待しておりますぞ

ねね、沙耶に連れられて去る

松野
淀

淀殿も早く安全な場所へ
わかっておる

稲葉

殿も早く中へ。まずは鎧を着けていただかなければ

秀秋

ええ・・・あれ重いんだもん

山口

そんな事言つてると死んでしまいますよ

秀秋

大丈夫だつて。まだここまで飛んでこないよ

頼勝

殿！

秀秋

あ、そうだ。鎧あげちゃった

山口

あげちゃったですつて?!

秀秋

そう。ジョージに。

山口

ジョージってさっきの・・・

秀秋

いたでしよ影武者

頼勝

殿お！ぶつ飛ばすぞまじで！・・・

稲葉

平岡殿、落ち着いて。こんなこともあるうかと予備を用意してますよ

頼勝

そうか・・・助かる。殿、影武者というのはすなあ・・・

などと言いながら家臣一同と小屋の中へ入っていく
淀と古満が残る。

古満 淀様も早く中へ

淀 わたしはよい。使いのものを待たせてある

古満 お顔がひどいですよ。大丈夫ですか？

淀 大丈夫じゃ。おのれ、ねねの女狐め・・・

古満 ご安心ください淀様。

淀 安心など出来るか！

古満 お任せくださいませ。このままにはさせませぬ

淀 何か考えが？

古満 この方法は使いたくありませんでしたが・・・

淀 何をする気じゃ

古満 風華、穂華、おるのであらう

風華・穂華出てくる

風華 こちらに

淀 この者達は？

古満 私の忍びでございませぬ

淀 忍びじゃと？

古満 私の申すことを忠実に聞いてくれる優秀な僕でございませぬ

風華 もったいないお言葉。有難き幸せにございませぬ

風華 古満
風華 穂華
古満
風華
古満
淀
古満
淀
古満
風華
淀
古満
穂華
淀
風華
古満
淀
穂華

古満様、われらをお呼びしたということは……

そう。取ってきて欲しい物があるのです

なんなりと

われ等が取れないものはございませぬ

この者達は私が嫁ぐ前から仕えてくれているのです、今までわしの欲しいものは全てとって

きてくれました

ほお

淀様、何か欲しいものはありませんか？

欲しいもの？

何か申してみてくださいませ。何でも持ってきてくれまする

では……ここにくる途中にかんざしを落としてしまつて……

こちらに（かんざしを出す）

これは、わらわのかんざしじゃ。どうして持っている

言つたではないですか。もつて来れぬものは無いと

では、虫に刺されてしまつたので何か

ムヒでございます

うわぁホントだ。何でも持つてる

他にはありますか？

じゃあ、『』

（袖に取りに行く）こちらに

すごい……じゃあ、『』

『』でござります

（後は適当にやってください）

淀
風華・穂華
はっ
その辺でよろしいでしょう。本題に入ります

淀
何を持ってござせるといふのじゃ

古満
大した物ではございません

穂華
何なりと

古満
中納言、小早川秀秋の首を

淀
な！

古満
おぬし等なら簡単じゃろう

淀
古満姫、本気で申しておるのか

古満
冗談は好きではありません。秀秋様が死んだとなれば家臣たちはまた揺らぐでしょう。そこで再び西軍に付くように仕向ければ小早川家は西軍の味方になります

淀
秀秋殿はおぬしの夫であらう

古満
淀様、私は政略結婚で小早川に出された身。秀秋様に愛情などありません。

淀
しかし……

古満
西軍が勝利すれば毛利家は安泰です。私は悲劇の未亡人として家に帰ればよいのです。

淀
そこでまた新しい夫でも見つけ、幸せに暮らします

古満
そうか……私にできることはあるか？

淀
頃合を見計らって再びお越しくださいませ。ねね様がいなくなれば淀様のお言葉は大きな力になります。家臣たちを西軍へと導いてくださいませ。

古満
わかった

淀
わたくしは秀秋殿が一人になるような状況を作ります。風華、穂華、そこをすかさず……

古満
わかっておるな

風華
はい。必ずやご期待にこたえましょう

古満 よいか、小早川軍が動いてからでは遅いのです。なるべく早く事を成すのですよ

穂華 心得ました

古満 ゆきなさい

風華・穂華 はっ(去る)

淀 うまくいくであろうか・・・

古満 ご心配は無用です・・・これで天下は・・・

暗転？

第3場

笹尾山。石田光成陣内

光成 行けーい！止まるな！

左近 殿、黒田隊5400、我が隊の攻撃の前に後退しつつあります
光成 でかしたぞ。そのまま押し切って家康の陣までなだれ込むのだ

桃配山。家康陣内

家康 えーい。何をやっておるか。島隊はたったの1000人ではないか数の上では負けておらん。

黒田 左近などに臆するではない！
強い。これが噂に聞く左近隊か。大将をはじめ精銳ぞろいだ・・・接近戦は分が悪い。

弓と鉄砲を使い遠くから攻撃するのだ

午前10時半。合戦開始から2時間半が経過

小早川陣内。秀秋、頼勝、山口がいる。

秀秋は望遠鏡を覗きながらまだ決めかねている

頼勝 殿、決心なさいましたか？

秀秋 んー・・・

頼勝 何を迷われているのですか。開始から既に二時間経っているのですぞ

秀秋 ね

頼勝 ねではいざりませぬ。早く兵士を動かしてください

秀秋

んー・・・

頼勝

西軍に向かって「行けー」と言って下されば良いのです

秀秋

わかってるんだけどさあ

松野

どうなさいましたか？

秀秋

何かさあ、西軍有利じゃない？

頼勝

は？

秀秋

ほら見てよ。島左近の隊とか人数少なくせにどんどん押ししてるよ。下の大谷吉継も

頼勝

凄いい気迫だし・・・あそこに攻め込まなきゃいけないんですよ

秀秋

そうです。それが戦でございませす

頼勝

このまま西軍として攻め込めば、家康やつつけられるんじゃない？

松野

何を・・・

頼勝

殿、確かにそのとおりかもしれませんが、一度は東軍につくと決めましたが、負けてしまつてはどうしようもありません。ここはひとつ、西軍に付くことも再考されては・・・

秀秋

松野！おぬしまでまだそのようなことを申すか！

頼勝

そうだよね。西軍もありだよね

松野

戦に勝つてしまえばね殿とてうるさいことは言えますまい

秀秋

そっか、勝てばいいのか

松野

どうでしょうか？このまま西軍の勢いに乗ってしまいますか？

秀秋

うーん・・・

左近

どけどけい！槍の餌食にするぞ！

黒田

撃てえい！

矢が飛ぶ（ひゅんひゅん）左近に当たる

左近
ぐあ！

黒田
よし！一斉にに撃つのだ

石田
左近！

左近
これしきの攻撃効きませぬ。殿、今がチャンス！待機している軍を一気に攻め込ませてくたさい。

石田
わかった。狼煙を上げい！松尾山の小早川、南宮山の毛利に知らせるのじゃ
左近
狼煙が上がったか・・・さあ、行くぞ！東軍を叩き潰すのだ！

黒田
島左近負傷！家康殿、攻め時ですぞ

家康
おお。心得た！黒田、小早川はいつ動くのじゃ？

黒田
我が家臣の大久保が行っております故、間も無く動くものと思われませんが・・・
家康
小僧が・・・もたもたしおって・・・

松尾山。小早川陣内

山口が飛び込んでくる

秀秋
お、狼煙だ

松野
申し上げます。ただいま西軍石田陣内より狼煙が上がりました。待機している軍に対しての一斉攻撃の合図かと思われませぬ

秀秋 わかつてる。見ればわかるよ
頼勝 西軍の狼煙など関係なからう。我々は東軍だ
山口 それはそうですが・
松野 殿、今東軍に攻め込めば勝利は西軍のものですぞ
秀秋 そっか、そしたら閑白だね
山口 そうですよ。行つてしまひましょう
秀秋 よし、西軍だ！
頼勝 殿、待ってください・・・
秀秋 皆のもの！東軍に突撃だあ！

「おお！」の怒声

左近 おお、小早川が動き出したぞ！殿、我々も遅れを取れませんぞ
光成 これで勝ちはきまつた。東軍を囲むのだ

家康 小早川秀秋、裏切りおつたかあ！
黒田 家康殿、今小早川に攻め込まれては負けは確実です
家康 お主の家臣は何をしておるのだ
黒田 大久保がしくじったか
家康 若造が調子に乗りおつて。迎え撃て！

秀秋 行け行けえい。家康なんかやつつけてしまえ！

稲葉が飛び込んでくる

稲葉

殿！待ってください！

秀秋

邪魔をするな

稲葉

大久保殿が目を覚まされました

秀秋

え？

大久保が来る

大久保

小早川殿！なんですかこれは。何故東軍に向かって動いているのですか

秀秋

いやあの・・・

大久保

騙したのですか！

秀秋

騙したっていうか

大久保

くう！かくなるうえは・・・

大久保、懐からダイナマイト（？）を出す

秀秋

ちよつと！何それ？

大久保

腹を切るだけでは殿に合わせる顔がありません。この身もろとも破裂してお詫びをします

秀秋

うわあ！止めろ

止めようと家臣たち

大久保 近づくな！近づけば火をつける
松野 近づかなくても火をつけるつもりであろう
大久保 そういう考え方もある。殿、申し訳ありませんでしたあ！

火をつけようとする

秀秋 わかった！わかったよ。全軍ストップ、ストップ！

全軍止まる

黒田 何だ？止まったぞ

島 どうしたのだ？

秀秋 爆発されたらこつちまで死んじゃうよ。全軍西軍に攻め込め！（おお！）

石田 うお！こつちに向かってきたぞ

島 何？！

石田 裏切ったか。小早川

家康 ふふふ。何かの間違いであったようじゃの。

黒田 片翼の折れた西軍などもう怖くはない。者共続け！

大久保 これで殿への面目は保てます

松野、隙をついて大久保のダイナマイトを取り上げる

松野 殿、取りました！

頼勝 松野、でかしたぞ

松野 今ならまだ間に合います東軍に攻め込んでください

頼勝 何じやと

大久保 卑怯ですぞ

松野 関白になれるのですよ

秀秋 関白・・・そうか、やっぱり東軍に攻め込め！（おお！）

黒田 うおお！こつちに来た！

島 はははは、死ね家康！

家康 やってくれるではないか光成！

光成 私を騙せると思ったら大間違いだ

大久保 殿、やはり私は・・・飛び散る運命でした！（予備を出す）

稲葉 もう一本持ってましたよ！

秀秋 うわあ！やっぱり西軍だ。西軍に攻め込め！（おお！）

家康 どうだ光成！

光成 古だぬきめえ！

山口 殿、奪いました
秀秋 よし東軍に行け！

黒田 こつち来たぞ

大久保 無念だあ！
稲葉 まだ持ってますよ
秀秋 西軍に攻めろ！

島 うわ、向かってきた

頼勝 全軍止まれ！止まるのじゃ！（止まる）
秀秋 頼勝、何故止めるのじゃ。

頼勝 殿……（殴る）
秀秋 ひい……何を……
頼勝 戦は遊びではありませんぬ。

光成 止まったぞ……

家康 どうしたというのだ……

頼勝

秀秋

頼勝

秀秋

頼勝

秀秋

頼勝

秀秋

頼勝

古満

稲葉

古満

秀秋

古満

秀秋

古満

殿の判断にすべてがかかっているのです
わかつておる

わかつておりませぬ。殿がお考えなのはご自分の利益だけじゃ。負ければ城を守ってくれて
いる家臣や我々の家族、全てが危険に晒されるのですぞ。今の拳は我々家臣一同からの思い
でございませぬ。我々の意見は全てあなたと待っていてくれる者達を考えてのことなのです
私にどうしろというのじゃ

もう一度、ご自分の事だけでなく国のこと、皆の事を考えてご判断ください
．．．私に家族はおらん．．．養子で家々をたらいまわしにされた私がどうやって家族の
事を考えればよいのじゃ！

殿．．．
世継ぎだとか、政略で養子に出された私の考えねばならぬ家族がどこにおるのじゃ
せめて．．．せめて自分の出世を考えるのがいかんというのか！

いや、殿．．．
家族なら、私がいるではありませんか

古満が出てくる

古満姫．．．

殿、私は妻でございませぬ。妻の私が家族でなくて、誰が家族なのですか

古満．．．

平岡様の言うことはごもつともです。殿には私の事も考えて戦っていただきませんと
そうじゃった。私には古満がいる

皆さん、殿は皆さんにいろいろと言われて混乱してしまっているのです。もう一度冷静な
ご判断ができるようになるまで一人にさせてはいただけませんか？

松野 しかし、戦は既に佳境に入っております

古満 冷静な判断ができない状態での戦にどうして勝てましょうか？それこそ、悲しむ者がふえるでしょう。違いますか？

松野 それはたしかに・・・

古満 大丈夫。殿はすぐに立ち直ります。ここは私にお任せくださいませ

松野 古満様がそうおっしゃるのであれば・・・平岡殿

頼勝 うむ。しばし外におります。しかし、長くは待つておれませんで

古満 わかっております

家臣一同外へ

中には秀秋と古満が残る

家康 どうした、小早川は何故動かぬ

光成 さっきの動きは何だったのだ

島 小早川陣内で何かあったのでしょうか？

黒田 家康殿、待っているだけでは勝てませぬ。ここはまず目の前の敵を！

家康 うむ。止まるでない！まず前の敵を打ち崩すのじゃ。前進しろ！

島 光成様、徳川軍が動き出しました

光成 来おったか家康。全軍家康に向かって進むのだ！

家康・光成 行けえ！

秀秋 古満、私の味方はおぬしだけじゃ・・・
古満 そんな事ありません。皆、殿のことを思っておりますよ
秀秋 では何故私のことを殴るのじゃ
古満 お家の為を思っております。お家が繁栄すれば、それが殿のためなのです
秀秋 お家お家っお家て・・・はっ！（ひらめく） oh yeah-
古満 ・・・・殿、空気を読んでください
秀秋 ちよっと思いついちゃったんだよ・・・

声 おおい！

などと会話をしていると、背後から風華と穂華が忍び寄る
気付かない秀秋。2人が刃を抜いたところで声がする

声に反応して再び身を隠す忍び

秀秋 何だ？！

そこに鳥（鷹）が入ってくる

鷹 お前が小早川秀秋か？
秀秋 古満、何か来たぞ
鷹 何か来たじゃねえんだよ（打撃）

秀秋 ひい・・・
古満 何ですかあなたは
鷹 見てわかんたら！・・・秀秋さんよお前いいかげんにせえよ
古満 見てもわかりません。誰なのですか。っていうか何なのですか
鷹 鷹だよ、鷹。知ってる？鷹
古満 加藤なら・・・
鷹 加藤とか言ってるじゃねえよ。結構気にしてんだよ。俺はあんなに頑張れねえよ
秀秋 鷹が何のようじゃ
鷹 俺はなあ、家康さんの鷹だ。サブロウってんだよ
秀秋 家康の？！
鷹 そうだよ。何か文句あんのか？
秀秋 文句はないが・・・お主ジョージに似ておるな
鷹 似てねえよ。人間と一緒にすんじゃねえよ。どつからどう見ても鷹だろうが
秀秋 すまぬ。
鷹 何？なめてんの？
秀秋 いや、なめてはおらん
鷹 鷹なめんなよ
秀秋 は・・・はい
古満 して、家康殿の鷹が・・・
鷹 サブロウだよ
古満 サブロウが何の用ですか？
鷹 呼び捨てかよ。まあいいや・・・秀秋さんよお、お前えがうだうだやってつからビシいって
秀秋 言いに来たんだよ。文句あつか？
鷹 いや、だから文句は無いとさつきから・・・

鷹 鷹
秀秋 ああん？
鷹 いえ、何でもないです
鷹 いいか、さつさと東軍について西軍を攻め込め！
秀秋 え？でも・・・今ちよつと考え中で・・・
鷹 お前の意見なんか聞いてねえ。さつさと西軍に攻め込め。
古満 鷹が意見するのですか・・・
鷹 黙って聞け。さつきからご主人様が機嫌悪くてしゃあねえんだよ。
秀秋 そんなのこつちの知つたことではない
鷹 はあ？じゃあ知れよ。ご主人様が不機嫌だから俺は何も食わせて貰えねえんだよ
鷹 さつさと西軍に攻めこまねえと狩るぞお前
鷹 狩るつて・・・
鷹 鷹狩りだよ！ぶわあつ上空からガシつとお前えを狩るつていつてんだよ
秀秋 それは痛そうじゃ
鷹 いてえなんてもんじゃねえよ。鷹狩りなめんなよ
秀秋 死ぬか？
鷹 まあ、俺が本気出せば即死だね。
鷹 ひい・・・
鷹 だからよお、さつさと動けよ。簡単だろ？
秀秋 だけど、それはいま考え中じゃと・・・
鷹 うるさせえな（バシツ）ぐだぐだ言うな早くしろ
秀秋 何だよ！鷹まで私を馬鹿にするのか！
鷹 お、逆切れ
秀秋 お前なんか私の気持ちがあわかつたまるか！
鷹 人間の気持ちなんかわかるかアホお！

秀秋
鷹 お前なんか、お前なんか流れ弾に当たって死んでしまえ！
何だこらあ！
秀秋 うわあーん！

秀秋、泣きながら飛び出していつてしまふ

古満 殿、待ってください！

鷹 ああ、行っちゃったよ

古満 どうするのですか？あなたのせいですよ

鷹 俺のせいなの？！

古満 そうでしょう。殿がいないと小早川は動かないのですよ

鷹 やばいな・・・俺帰ろ・・・(出て行くこととする)

古満 待ちなさい！

鷹 あ、責任とかとらないよ。俺、鷹だから

古満 そんなことは言っていないよ。むしろ好都合

鷹 は？

古満 いえ、こちらの話です

鷹 じゃあ何？

古満 歩いて帰るのですか？

鷹 え？

古満 鷹なんだから飛べばよいのでは？

鷹 うるせえな！いろいろあんだよ。

古満 ふーん

鷹 出てからぶあつと飛ぶんだよ

鷹 古満

へえ
本当だからな。出てから飛ぶんだからな。

鷹出て行く

入れ替わりで風華と穂華が来る

風華

古満様

古満

邪魔は入りましたがこれで殿は一人になりました。よろしいな？

穂華

かしこまりました

古満

全ては毛利家のためです。この戦が終わればそなたたちにも褒美をとらせましょう

風華

もったいないお言葉。

穂華

姫様、お願いがございます。

古満

なんじゃ？

穂華

姫様がいつもお持ちの小切れを下さいませぬでしょうか

風華

穂華！

古満

まあ、良い。これか？

穂華

はい♪

古満

頼んだぞ

2人

はい

古満

行きなさい

風華・穂華
はっ

風華、穂華出ていく

古満

さて・・・私は・・・大変です。殿が！殿が逃げました！

暗転？

第4場

松尾山の麓。

四武将が待機している

朽木 ねえ、狼煙上がってるよ。動いた方がいいんじゃない？

脇坂 まだだ。まだ時ではない

朽木 早くしないと光成殿が怒るよ

赤座 うるせえな。じゃあお前のとこだけ行けよ

朽木 やだよ。600人じゃ死ぬよ

小川 では、時期が来るまで黙ってまっていることだ

朽木 その時期ってのはいつ来るんだよ

脇坂 わかんないから、こうして見てるんだろう

赤座 戦況は西軍有利に見えるが、きつかけ一つでたちまち東軍が有利になる状態だ。

朽木 弱小の我々が被害を最少に抑えるためには小早川殿が動くまで見守るべきなのだ

脇坂 それでいつの間にか終わっちゃいましたなんて事になったら切腹ものだぞ

朽木 その時はその時だ。

小川 それにしても小早川殿はいつ動くのであろうか

赤座 さつき上のほうで、どわあっと動いたのは何だったんだ？

小川 右に左にと不思議な動きであったが・・・

脇坂 ・・・・もしや・・・迷っておられるのかもしれない

朽木 一万5000の大將が何を迷うんだよ

脇坂 東軍と西軍どちらに付くかをだ

朽木 ええ！それって、東軍に付く可能性があるって事か

脇坂
そうだ

なるほど、大谷殿の話は本当であったか・・・そう考えるとさっきの動きにも納得がいく

赤座
おいおい、まじかよ。裏切るなんて俺たちだって考えてなかったぞ

朽木
だったら、一番初めに攻め込まれるのは俺たちじゃんか

脇坂
小早川殿が東軍についたらそうなるだろうな

赤座
おとなしい顔してやってくれるじゃねえか

朽木
どうすんの？

脇坂
迎え撃つしかないだろう

朽木
勝てるわけないだろ。人数だつて地形だつてこつちが不利なんだぞ

うだうだ言つてんじゃねえよ。やらなきゃこつちがやられんだよ。

赤座
ああ、有利なのを油断してくれていれば方が一もある

しかし、相手はあの勇猛果敢な小早川殿だ。油断など有り得るか？

朽木
無理だよお。逃げようかなあ・・・

お前、そんな事したら俺が切るぞ

赤座
もうやだよ。俺たちいつつこんな役回りじゃん。

文句ならこの時代に生まれた運命にすることだ

朽木
・・・俺はおる。今なら巻き込まれる前に撤退できそうだ

何だところら！（刀を抜こうとする）

朽木
斬りたいなら斬れ！何と言おうがこんなところで利用されて死ぬなんてごめんだ

本気か？

小川
ああ、本気だ。

そうか・・・ならば朽木、俺たちの友情もここまでだ

朽木
友情？

俺は少なくとも、ここにいる4人は家は違えど友だと思つている

朽木
赤座

友・

小川も脇坂もお前も、戦のときに敵になった事も味方になったこともある。だが、俺はどこかで俺と同じような立場のお前たちに何かを感じていた・・・家が小さくていつも損な役回りの俺たちだ。だが、いつか名前をあげて大名に成り上がってやるって意気込みだけでここまで必死にやってきた。お前にもそんな意気込みがあると思ってたよ

朽木

赤座・・・

私もだ。名前をあげればいつかは戦のない場所でも暮らせるかもしれないと思っていた。

脇坂

だからいままで戦ってきたのだ

赤座

お前も同じ志を持った同士だと思ってたよ

朽木

それとここで撤退するのは別の話だ・・・私にだって城で待っていてくれるものがあるのだ

小川

ああ。別かもしれないよ。けどなあ・・・

朽木

行かせてやれ。今ここで友と呼ぶのは酷なことだ・・・行け。ここで逃げたとしても、我々は友だ。安心しろ

朽木

すまん・・・

去ろうとする朽木

秀秋がくる

朽木

小早川殿！

秀秋

あ・・・ここは・・・

脇坂

どうしたのですか？

秀秋

あの・・・その・・・

小川

また偵察ですか？

秀秋

いや、ここに来るつもりでは・・・

赤座

泣いてるんすか？

秀秋

違う。泣いているのではない・・・汗をかいているのじゃ

赤座

まあ、来てくれたのなら話は早い。小早川殿、あんたどっちに付くつもりだ？

秀秋

え？

赤座

東軍と西軍、どっちの味方になるつもりですか？

秀秋

ここでもその話ですか・・・

朽木

え？

秀秋

いや、こちらの話です

脇坂

赤座殿。話が唐突過ぎる。小早川殿、実は開戦前にあなたが裏切るのではないかという話を

秀秋

聞きましてね・・・

脇坂

そうですね・・・

秀秋

先ほどあったときにはそのような心配が無かったですから安心したのですが、

脇坂

開戦後の小早川軍の動きがどうもおかしいではありませんか。そこで我々一同どのように

赤座

動けばよいか悩んでいたところなのです

赤座

あんたのところは東軍に付くのなら俺たちが始めの標的だろ？だから攻めるに攻められなく

小川

てき。なあ、どっちに付くんのだ？

赤座

無礼だぞ

小川

こっちはおかげで友まで無くすところなんだ。はつきりさせてもらわねえと納得がいかねえ

赤座

だよ

小川

では、ここでいま小早川殿が東軍に付くといったら、おまどうするつもりだ？

赤座

それは・・・斬る

秀秋

ひい・・・

脇坂

それでは誰も東軍に付くとは言わないだろ。結局はつきりしないぞ

赤座

そうか・・・

脇坂

秀秋
小川

先ほど我々はあなたを大将として一緒に戦おうと言いました。だがそれは西軍としてだと
思っていたのです。ここは一つ西軍として戦うという言葉で我々を安心させて欲しいのです
私は・・・
何奴！

風華と穂華が来る刃を構える2人

小川

風華
脇坂

その姿、忍びか？
一人になったと思つたら、こんなところまで降りてくるなんて
何処のものだ

穂華
秀秋

言う必要は無い。私たちの目的はただ一つ。小早川秀秋の首
わ、私だと？！

赤座

他のものに用はない。死にたくなかつたらどいていろ！
そう言う訳にもいかねえんだよ。こっちは大事な話の最中だ！

4 武将拔刀

風華

黙って見ていけばよいものを

対峙する2対4

何手かやりあう

脇坂
朽木

朽木、まだいたのか
逃げそびれた

脇坂 　　ここは私たちに任せて早く行け
朽木 　　友のピンチを黙ってみてはられないだろう

カキンカキン

風華 　　勇敢に戦死するより、暗殺される方を選ぶとは・・・間抜けな武将たちだ
赤座 　　「ごちやごちやくつちやべってないで、かかってこいやあ！」

カキンカキン

脇坂が肩を切られる

助けに行ったりする

最終的に忍びがやられる感じ(まだ生きてる)

徳華 　　く・・・

小川 　　戦の前に詰まらんものを斬ってしまった

朽木 　　脇坂、大丈夫か？

脇坂 　　ああ。たいしたことは無い。(忍びに) おぬし等、誰に頼まれた？

風華 　　・・・殺せ

赤座 　　誰に頼まれた！

穂華 　　言えぬ。殺せ

赤座 　　殺すわけにはいかねえな。大将が狙われたんだ。危険分子は元から絶たねえとな

風華 　　大将だど？笑わせるな。その者はずつとどつちに付くか決めかねているだけのただの

臆病者だ

赤座 　　なんだと

風華

教えてやる。小早川秀秋は自分の事しか考えられない臆病者だ。ここきたのも偵察などはない。判断を迫られ逃げてきたただけだ

そうなのか？小早川殿・・・小早川殿？

小川

隅でうずくまっている秀秋を見つける

穂華

見よ。あの情けない姿を。おぬし等、あれを大将として付いていくつもりか？

赤座

・・・行け（忍びに）命だけは助けてやる

穂華

情けなど無用だ

赤座

やる気が無くなった

秀秋

穂華、小切れで傷をおさえる

穂華

お主・・・その小切れをどこで・・・

風華

???

穂華

穂華！

秀秋

あ・・・

穂華

その小切れは古満の・・・

秀秋

・・・

風華

おぬしらを差し向けたのは古満なのか？
穂華、撤退するよ！

風華、穂華逃げる

秀秋 待て！古満が……（崩れる秀秋）

脇坂 小早川殿、古満とは？

秀秋 私の妻です

朽木 妻って……奥さん？

秀秋 はい……古満にまで裏切られるとは……

脇坂 小早川殿、忍びの言っていたことです……

秀秋 その通りです……私は臆病者の弱虫です。

小川 我々の買い被りであったというわけか

秀秋 ここにも逃げてきたのです。この戦だつて、本当は来たくなかつたのに、いつの間にか下に

集まつて、起きたらもうどうしようもなくなくなつて、家康も光成も来てどつちも断れなく

なつちやつて、家臣たちもうるさいし、淀様やお母様も違ふこと言ひし、もうどうしていい

のかわかんなくなつちやつて……

脇坂 そういうことでしたか

秀秋 私は皆に好かれたかっただけなのに……だから、偉くなれば皆喜んでくれると思つて……

偉くなつて戦を無くせば、皆喜んでくれると思つただけなのに……何で私を責めるんだ

……

一同 男のくせにぐちぐち泣きやがつて

秀秋 泣いておらん！これは汗じゃ

赤座 好かれようとして女房に刺客おくられてんじや世話ねえな

脇坂 赤座！

赤座 うわあああん。古満あああ

朽木 本格的に泣いちやつたよ

赤座 とんだ茶番だな……立て（掴む）あなたの行動は間違いだらけだ。軍はほつたらかだし、

優柔不断だし、いいこと無しだ。

秀秋

うをああああん！

脇坂

それ以上泣かしてどうするのだ

赤座

だけど、あんたの間違った行動のなかで一つだけよかったことがある

秀秋

よかったこと？

赤座

俺たちのところに来たことだ。あんたの思い、少なくとも俺たちには伝わったぞ！

秀秋

・・・？

赤座

今からあんたは一人じゃない。俺たちと同士だ

秀秋

同士？

小川

そういうことか

脇坂

赤座も人が悪いな。そこまで泣かせてから言うこともないだろう

赤座

あんまり女々しいからさあ

脇坂

小早川殿、あなたの思い、確かに伝わりました。一緒に戦のない世をつくるうでは

ありませんか。

秀秋

脇坂殿・・・

脇坂

今この場より、私たちは友です

秀秋

友・・・

脇坂

そう。同じ志を持った友です

秀秋

友・・・私を友に・・・

小川

そこまで喜ばれると照れるな

秀秋

友か・・・いい響きだ・・・

朽木

初めて友が出来たような物言いだな。いや、もしかして初めてですか？

赤座

あ！おい、お前いつまでいるんだよ（朽木に）

朽木

いつって、いつまでもだよ

赤座

お前帰るって言ってたじゃねえか

朽木 目の前で友とつか、思いが伝わったとつか言ってるのに帰れるわけないだろ
赤座 終わったからもう帰っていいよ
朽木 そんな冷たい事言うなよ。友達だろ
赤座 お前とはさつき縁を切った
朽木 俺も入れてよお
赤座 早く帰って子猫の貰いで探せよ。
朽木 もお、いじめないでよ
赤座 くつつくな。獣くさい
秀秋 私のために怪我をさせてしまった・・・
脇坂 この程度、どうって事は無い
秀秋 すまない

【ドーン】

伏せる面々

朽木 そういえば戦中だったな
脇坂 小早川殿、急いで自陣へお戻りください。
秀秋 しかし、私はまだ・・・
脇坂 あなたの思うように動きなさい。あなたがどちらに付いても我々はあなたに着いて
いきましよう
秀秋 よいのか？
脇坂 一番兵を持っているのは小早川軍です。戦への影響力も小早川軍が一番です。
小川・・・あなた、友の判断を信じます
先ほどの忍びが狙っておるかもしれん。気をつけられよ

赤座
秀秋

頼むぜ大将！
・
・
わかつた！

暗転？

第5場

小早川陣内
家臣4人と古満、淀がいる

頼勝 殿は大丈夫とあれほど言っていたではありませんか！

古満 申し訳ありません。鷹が来たのです。

稲葉 はい？鷹？

古満 大きな鷹が来て殿を殴ったのです。殿は鷹から逃げて……

頼勝 冗談を言っている場合ではありませんぞ

古満 私が冗談いつているというのですか

松野 そんな話より、今はこの小早川軍をどう動かすかを話さなければならぬのでは？

淀 確かに、平岡殿今是我々の意見を統一するのが先決です

頼勝 最後に判断を下すのは殿じゃ

山口！万が一とはどういうことよ、万が一ということも……

山口！万が一とはどういうことじゃ？

山口！……

頼勝 殿が死んだとでも申すつもりか！

淀 その可能性も捨てられはしないでしょう。ねえ、古満姫

平岡様、目を話した私が悪いのです。お許しください。でも私は武士の妻でございます

万が一の覚悟は出来ております

古満様まで……

頼勝 いやあ、しかしこれだけ帰ってこないのですから、死んではいらないとしても、流れ弾等に当たって動けなくなつてもかも知れませんが、ここで動かなければ卑怯者扱いをされ、

最悪お家断絶ですよ
むう、それは避けたい
形だけでも兵を動かしておいた方がよいかと・・・
しかし、殿がいなければ兵が動かんぞ
心配ありません。こんな時のために・・・入ってきなさい

影が入ってくる

影
オレハコバヤカワヒデアキダ

頼勝
お前かあ！

古満
この者に指示させれば誰もわかりませぬ

頼勝
わかりますよ！全然別人じゃん！

影
オレハコバヤカワヒデアキダ

頼勝
うるさいよ！・・・古満様、あなたが連れてきたのですか

古満
ええ。ジョージです

影
うん。そうだよね

頼勝
黙れ！お前向こう行け！切り殺すぞ（ジョージを追いやる） あんなのは全然駄目ですぞ

古満
いいアイデアだと思っただけです

頼勝
どこがですか。黒人ですよ

古満
黒人差別ですか？黒人にも平等に人権を・・・

頼勝
そんな話はしておりません！

松野
平岡殿、ここは貴方が指揮を執って兵を動かして貰いたい。

頼勝
私が？

松野
私でもよいが求心力があるのはあなただ

頼勝

淀

頼勝

淀

頼勝

古満

松野

稲葉

頼勝

稲葉

頼勝

松野

頼勝

山口

頼勝

松野

頼勝

松野

秀秋

・・・わかった

では、西軍として動きなさい

淀殿、また口を挟まれるのですか

私はこの家のためを思っ言っているのですよ。西軍が勝てば天下は息子秀頼のものじゃ

もし、秀秋が死んでいても悪いようにはせぬ

先ほどから殿が死んでいるような物言いですな

平岡様、淀様は皆様の事を考えていつているのですよ

古満様の言うとおりで。私情は捨てて考えられよ

平岡殿、殿の安否がわかるまでとりあえず西軍で動いておいた方がよいですよ

稲葉、お前まで・・・

幸い大久保殿もどこかに行っておりまし・・・淀殿の手前、もう言い訳は出来ません

むむむむ・・・私は動かん!

まだ東軍にこだわっておいでか!

西軍に付くのが殿の判断ならば従う。しかし、私が自ら西軍を支持することは出来ん

頑固ですな・・・

何とでも言うがいいわ!私は動かんぞ

わからずやめ。もうよい。私が指揮を執る

勝手にするがよい

そうか、ならば・・・全軍!東軍に向かって・・・

待て!

秀秋が帰ってくる

松野

殿・・・

頼勝 殿お！いままでどこに・・・
秀秋 小言は後でよい。戦が先じゃ
古満 秀秋様・・・
秀秋 古満・・・
淀 古満姫、どういうことじゃ？秀秋殿が生きているではないか
秀秋 やはり・・・そうか・・・
頼勝 お待ち下さい！淀殿、今の言葉どういう意味ですか？
淀 あ・・・それは・・・
稲葉 まるで貴方が殿のお命を狙っていたような言い方ですねえ
頼勝 返答しだいでは、淀様でも容赦いたしませんぞ
淀 わしは知らぬ！全部古満姫が・・・
松野 古満様？まさかあなたも・・・
山口 殿を暗殺しようとしたのですか？
淀 わしではない。古満姫が秀秋殿に刺客を
古満 お黙り下さい。淀様、気でも触れましたか？何故私が殿を殺さなければならぬのですか。
淀 え・・・

古満 皆様もそうです。私と淀様が殿を殺して何の徳があるというのですか。失礼です
稲葉 しかし今、確かに淀殿が・・・
古満 聞き違いです。それとも、私が刺客を放ったという証拠でも？
稲葉 いえ、証拠などは・・・ありませんが・・・
古満 私をお疑いならば証拠をお持ちください。それも無しで疑うのは無礼千万です
稲葉 し、失礼致しました
ねね 証拠ならこれでよいか

ねねが来る

一緒に沙耶、大久保

大久保の手には風華と穂華を捕らえられている

ねね 証拠とは、このことか？

ねね殿。何故お戻りに？

ねね様は大久保殿に秀秋殿がいなくなったと報告を受けて。いてもたってもいられなくなり
駆けつけたのです

ねね しかしこうして秀秋殿はご健在でほっとしました。(淀に)何故か余計な者のいるようじゃが
さて、それよりも大久保殿が捕らえている者たちのことじゃが・・・

大久保 近くでうろろしているのを捕らえました
何者ですか？

それは、その2人がよく知っているのでは？ねえ、淀殿、古満殿。

.....

私を襲った刺客だ・・・

なんと！ではやはり殿は襲われたのですか？

古満、お主の仕業じゃな

.....

.....

淀 どのようなのですか？

こ、古満姫、どうするのじゃ

私は知らん。私は東軍より放たれた刺客

東軍?!で、家康が・・・

そんなことはどうでもよい。早く殺すがよかろう！
古満姫、どうなのですか？あなたは関係ないのか？

頼勝

穂華

山口

風華

淀

松野

古満

秀秋

稲葉

秀秋

古満

ねね

松野

大久保

ねね

風華
頼勝
淀
穂華
古満
淀
頼勝

関係ないといっておるだろ！早く・・・
黙っておれ！古満様、どうなのですか
古満姫・・・
早く殺せ！
その者達は・・・私の忍びです・・・
古満姫！
この女狐があ！

頼勝、古満を投げる
地面に倒れる古満

頼勝
淀
頼勝
淀
稲葉
淀
頼勝
ねね
古満
風華
穂華
古満

この場で叩き切ってくれるわ！
何故じゃ、忍びの者など見捨てて、とほけきればよからう！
淀殿もお関わりが？
わ、私は知らん。全て古満姫がやったのじゃ
でも、知っていたのですね？
それは・・・
戦が終わったら、それなりの処置をとらせていたたく
それはわらわに任せておくがよい
古満！お主が余計なことを口走ったから・・・
その者達は、私が幼少の頃より共にすごした友でございます。見捨てられませぬ
古満様・・・
申し訳ありません！われらがしくじったばかりに・・・
何も言わなくて良い。今までよく頑張ってくれましたね

頼勝 殿の正室でありながら・・・三人まとめてここで始末してくれるわ！

頼勝 刀を抜く

頼勝 首を出せ！

松野、山口、稲葉 一人ずつ掴み前へ

頼勝 覚悟は良いか！

古満 ……はい。

頼勝 ぬうん！

頼勝 声と共に刀を振り上げる

秀秋 待て！

頼勝 どうしたのですか

秀秋 古満を殺すことはわしが許さん

頼勝 何ですと？

秀秋 古満を殺すなといったのじゃ

古満 秀秋様・・・

稲葉 殿、こやつは殿を殺そうとした女ですよ。それを生かしておくつもりですか

秀秋 わしは何もされておらん

山口 え？先ほど襲われたと・・・

秀秋 間違えた。わしを襲ったのはその二人ではなかった
頼勝 情けをかけるのですか？
秀秋 情けなどではない
頼勝 生かしておけば、再び殿を狙うやもしれぬのですぞ
秀秋 わしが危なくなったらはおぬしらが助けてくれればよいであろう
頼勝 しかし・・・
秀秋 わしがよいと言ったのじゃ！よい
頼勝 ・・・はっ（刀を納める）離してやれ

離す一同

ねね 秀秋殿、どういうわけじゃ
秀秋 口出しは無用。これは私の問題です
沙耶 ねね様に向かつてそのような口を・・・
秀秋 ここは小早川陣内。全ての決定はわしが決める
沙耶 なんということと・・・
ねね 沙耶、よい。秀秋殿、先ほどとお顔つきが変わられましたね・・・何か思いがあつてのこと
沙耶 なのでしょう。母は見守ることに致します
秀秋 ありがとうございます
古満 秀秋様・・・
秀秋 何も申すな・・・頼勝！
頼勝 はっ
秀秋 わしは決めたぞ
頼勝 何をでございますか？

秀秋 決まっておろう。東軍西軍どちらにつくかをじゃ
頼勝 本當にごさいますか
秀秋 嘘を申してどうする
山口 では殿、いよいよ動かれるのですね
秀秋 ああ。
松野 して殿、我々は東軍西軍どちらに付かれるのですか
秀秋 我が小早川軍は・・・石田光成率いる西軍として戦う！
松野 おお！殿、ついに！ご決断なされたのですな
稲葉 殿、家康殿になんと言っておつもりですか
秀秋 何も言わぬ。
稲葉 な、何も言わぬですと・・・
秀秋 これからは敵じゃ。ここで家康を討つ
頼勝 よいのですな？
秀秋 よい。もう決めたことじゃ
淀 私の思いが届いたようですね
ねね 秀秋殿、それだけは許しません！
沙耶 そうです。ねね様が申しているのですよ
秀秋 関係ありません。私は私の判断で動くのです。
大久保 待つてくたされ！そうなればここで死んでいただきますよ！

ダイナマイトを出す

山口
大久保

うわ！まだ持ってたのか
考えを改めて下され

秀秋 大久保殿、頼みがあります。

大久保 止めようとしても無駄ですよ

秀秋 黒田殿にこれを渡していただきたい

大久保 何ですかそれは？

秀秋 黒田殿への手紙じや

大久保 何が書いてあるのです？

秀秋 一緒に西軍に付かぬかという密約書じや

大久保 そんなこと我が殿が承諾するはずない

秀秋 それはどうかわからぬが、これ届けねばお主は武士としての責務を怠ることになる

大久保 ……なるほど……考えましたな

秀秋 これで爆死する必要もなくなったわけじや。頼む

大久保 ……かしこまった。

秀秋 ご武運を祈っておる

大久保 ご武運を……ご免！

大久保手紙を受け取って去る

山口 あんな手紙、いつ用意されたのですか？

秀秋 ふふ……白紙じや

山口 な……大丈夫でしょうか……

秀秋 爆死するより良いじやろう？

山口 それはそうですか……

秀秋殿、わらわは認めたわけではありませぬ

秀秋 認めていただかなくても結構。それぞれ思いはおありでしょうがこれはもう決まったこと。

邪魔をしないでいただきたい

【ドーン】

沙耶
ねね

ねね様、ここも直に危険になります。行きましよう
秀秋殿、覚えておきなさい！

ねね、沙耶に引っ張られ出て行く

淀
秀秋
淀
秀秋
淀

秀秋殿、懸命な判断でありますよ
淀殿も出て行ってください。私は貴方の為に戦うではありません
そんな事を申すと・・・
聞こえませんでしたか？出て行ってください
ぬぬぬ・・・無礼ものめ。覚えておきなさい！

淀去る

稲葉
山口
秀秋
頼勝
秀秋
家臣 4人

あららら・・・両方怒らせちゃいましたね
後が怖そうです・・・
相手にしてはきりが無い。
殿、もう後戻りは出来ませぬぞ
わかっておる・・・全員配置につけ！
はっ

配置に付く

古満と風華・穂華が残る

秀秋

古満、隣におつてくれるか？

古満

・・・はい

秀秋

2人にさせてもらえぬか（忍びに

風華

しかし・・・（古満を見る）

古満

大丈夫です。下がっていて下さい

風華・穂華

はっ（下がろうとする）

秀秋

怪我は大丈夫か？

風華・穂華

・・・？

秀秋

つらい思いをさせた。すまなかつたな

風華・穂華軽く頷き出て行く

古満

殿、何故・・・

秀秋

古満、わしにも友が出来たのじゃ。

古満

友・・・

秀秋

生まれて初めてわしを友と呼んでくれるものが出来たのじゃ。わしは友のために戦おうと思

う

古満

そうですね・・・

秀秋

わしがふがないばかりにお主にもつらい思いをさせた。すまなかつた

古満

そんな、こちらこそ・・・

秀秋

もつと頼れる男になってみせるわしの家族はお主一人だからな・・・。付いてきてくれるな？

古満 秀秋様・・・一つ聞いてよろしいですか？

秀秋 なんじゃ？

古満 何故西軍に？

秀秋 まずはおぬしの希望。そしてわしに着いてきてくれるといった友のためじゃ友とは？

古満 松尾山の麓にいる4人の武將たちじゃ。彼らは西軍として来ておる。わしはどちらについて

秀秋 も所詮裏切り者じゃが、彼らまで裏切り者にする必要はないじゃろう。

古満 わかりました。私も小早川家に嫁いだ女。殿についていきます。

秀秋 ありがとう。全軍に告ぐ！我等は西軍として戦う。敵は東軍じゃ！（おお！）東軍に向かい！

家康、光成陣内

光成 もっと狼煙をあげよ。全軍に動くよう知らせるのだ！

島 小早川は何故動かんだ！

島 黒田隊後退！やつらは怯んでおります。小早川などいなくても勝てますぞ！

黒田 家康殿、このままでは持ちこたえられませぬ！

家康 どうしたのだ！先ほど以降小早川は動かんだではないか！

黒田 引くなあ！それでもおぬしら武士か！

島 黒田！まだ来るか！

黒田 島だけでも討ち取れ！

島 自分から来い！

黒田 数でかかれ！

島 何人で来ても（喰らう）う！

黒田 今だ。討ち取れ！

島 効かぬわあ！（ぐさぐさ）ぐあ！

光成 左近！

島 まだだあ（ぐさぐさ）がはっ……

黒田 島左近討ち取ったり！

家康 でかしたぞ

島 こんなところで……無念……（左近死ぬ）

光成 左近〜！

黒田 家康殿、島左近討ち死に！

家康 西軍の士気が下がっておった……今がチャンスじゃ！

黒田 心得ております！全軍一気に……家康殿……（小早川に気付く）

家康 どうしたのじゃ

黒田 小早川軍がこちらを向いております

家康 何？

光成 今頃動こうとは遅いのじゃ！だが家康、左近の敵は討たせてもらうぞ！

松尾山麓の4武将

赤座

お！上が動いたぞ！

小川

東軍に向いているということは・・・

脇坂

西軍できめたらしいな

朽木

助かった・・・裏切り者にならなくて済むんだな

脇坂

どちらに付こうが我々は志のために戦うのだ。裏切りにはならん

朽木

まあ、そりゃそうだけども

赤座

腕が鳴ってきたぜ

小川

我々も準備せねばな

脇坂

ああ。お互いに全力で戦おう

赤座

当たり前だったの。

脇坂

では・・・

4人

武運を祈る！

4人、配置につく

4人

全軍、東軍に向かって構えい

黒田

今小早川に攻められてはせっかくの勝機が・・・家康殿！

光成

行けい、小早川よ。東軍を一人残らず殺すのだ！

黒田 家康殿！
家康 わかつておる・・・鉄砲隊構え！
黒田 ここで鉄砲など撃てば前方の味方にも当たりますぞ
家康 狙うは・・・松尾山。小早川軍じゃ
黒田 な・・・両方いっぺんに相手をするのですか？
家康 撃てえ！

(バンバンバン)

松尾山。秀秋が望遠鏡で下を見ている

頼勝 殿、まだ動かないのですか？
秀秋 下の準備がまだ出来ておらん。待つのじゃ

家康 第二陣、撃てえ！(バンバンバン)

松野 殿！家康が我々の動きを察知して撃ってきました。早く攻めねば・・・
秀秋 わかつておる！もう少し待つのじゃ

小川 こっちの準備完了はした。そちらはどうだ？

赤座 こっちもオーケーだ。いつでも行けるぜ！

朽木 よし、こっちも大丈夫だ！

脇坂 待ってくれ。あと少しだ

大谷が来る

大谷 おぬし等！何故動かんのだ！

赤座 大谷殿、今動くところですよ

小川 わざわざお越しとは・・・

大谷 今まで何をやっていったのだ！

朽木 そんな怖い顔しないで下さいよ

大谷 顔など見えんわ！戦局を見えんのか！早く動かんと裏切り者として処分するぞ

脇坂 もう少しお待ちください。まもなくでございませう

大谷 早くせんか！

家康 第3隊撃てえ！（バンバンバン）

朽木 （当たり前そうになる）危ね！こちら家康！

家康 第4隊撃てえ！

弾が脇坂に当たる

脇坂 う！

赤座 脇坂！

秀秋 あ！脇坂殿！

脇坂 大丈夫だ！こちら準備完了した

大谷 早くせんと蜂の巣になるぞ。

小川 早く上の小早川殿に知らせるのだ

朽木 見てるか小早川殿！全員準備完了だぞお！

小早川 よし・・・全軍進め！（おおお！）

家康 撃て撃てえ！（バンバンバンバン）

小川 （当たる）ぐあ！

秀秋 小川殿！

家康 撃て！

朽木 （当たる）いた！

秀秋 朽木殿！

家康 撃て！

赤座 （当たる）うう！

秀秋 赤座殿！

家康 撃て！

4人もう一発つつ喰らう

秀秋

皆！

赤座

やってくれるじゃねえか！

小川

だが・・・この程度ではきかぬぞ

朽木

見せてやるうじゃねえか

脇坂

ああ・・・志の戦いを！

秀秋

全軍止まれ！

4 武将

ええ？

秀秋

止まれ！ストーリーっブ

古満

殿？

秀秋

やっばり駄目だ

頼勝

殿！また優柔不断ですか？

秀秋

違う！このまま東軍突っ込めば前方の部隊は撃たれてしまう！これ以上ともが傷つくのは見ておれん。攻めるは西軍じゃ！全軍、方向を変えよ！

赤座

おいおい、向き変えたぞ

朽木

俺たちを裏切ったのか？

脇坂

そんなことはない。彼を信じるのだ

朽木

じゃ何で

小川

どうやら、気を使われてしまったようだな・・・

脇坂

そうか・・・なるほど・・・

赤座

俺はどつちでも構わないぜ！

脇坂

では・・・我々も東軍になるか

朽木

よっしゃあ！

大谷

おぬし等、何を・・・

赤座

おいおい、大谷さん。こんなところにいいのかい？

大谷

何？

赤座

俺たちは今から東軍だぜ

小川

一番初めの標的は・・・

秀秋

いけえ！

4 武将

おお！

大谷

待て待つのだ！おのれえ・・・覚えておれ！

逃げる大谷

黒田
家康

向きが・・・変わった・・・家康殿やりましたぞ
見てわかるわ。全て・・・計算とおりじゃ

そう言いながらも家康は震えていた

黒田 こつちも負けてはおられぬ。前進だあ！

光成 何故だ・・・何故こちらに向かつてくる・・・こんなはずでは・・・こんなはずではなかった・・・

秀秋 全軍前進じゃ！

暗転

弁士 ちように太陽が関ヶ原の真上を照らした正午

関ヶ原が大きく動いたのであります。

小早川の裏切りを想定していた大谷吉継は必死に抵抗し、一時は小早川隊を大きく後退させます。が・・・固い絆で結ばれた彼らの敵ではありません。

あつという間に劣勢に追い込まれてしまいます。

おのれ、小早川め！と、最後まで恨みを残しながら、ぐさつと腹に刀を入れ、自害したのであります。

午後一時

大谷隊の玉砕は西軍の士気を大きく下げました。

それまで互角に戦っていた小西・宇喜多軍も劣勢に追い込まれます
ここで東軍の勝利は確信的なものになったのであります。

午後二時

もはやこれまで。

殿、腹を切りますかとの家臣の説得に全く耳を貸さない石田光成。

何故だ、何故我々は負けたのだ？

こんなところで死んでたまるか。と、未練たらたらで敗走したのであります。西軍派何故負けたのか。

大きな原因の一つはもちろん小早川家のと4武将の裏切りですが、裏切ったのは彼らだけではなかったのです。

後方を任されていた西軍総大将の息子、毛利秀元も、東軍の報復を恐れ全く動かなかったのであります。

そこにも、松尾山に負けず劣らずの人間ドラマがあったわけですが、このお話は、またいつか機会がありましたらご覧頂きましょう
とにもかくにも、

いつかまた家康を討つてやると言い残して、去った光成でしたが、彼がこの後、歴史に名を残すことはありませんでした

そして午後3時

西軍全ての軍が壊滅、又は敗走により

関ヶ原の戦いの幕は下りたのであります。

家康はと申しますと、勝ったは良いものの、あまりの恐怖に人生2度目の脱糞

殿、落し物がこぼれております。との家臣の言葉に、

これは糞ではなく味噌じゃと言ったとか言わなかったとか・・・

その日の夕方、松尾山の麓には4武将の姿がありました。

第6場

合戦が終わり松尾山麓

4 武将がいる

脇坂 終わったな。

朽木 ああ、終わった

小川 静かだな

朽木 ああ、静かだ

赤座 もうちよつと戦いたかったな

朽木 ああ・・・戦いたかった・・・戦いたくないよ！

赤座 何だよ！

朽木 なんでもないよ

脇坂 大将のお出まじだぞ。

秀秋が入ってくる

秀秋 おーい。

赤座 お疲れ大将！

秀秋 お疲れ様です・・・っていつでも私はほとんど戦ってないから

脇坂 いや、いい仕事をしてくれた。な・・・

朽木 ああ。抜群の判断だったよ

小川 小早川殿がいなければ我々もどうなっていたか・・・

秀秋 そんな・・・。あ、怪我は大丈夫ですか？

赤座 朽木 赤座 朽木 秀秋 小川 秀秋 小川 秀秋 小川 秀秋 小川 朽木 脇坂 秀秋 脇坂 秀秋 脇坂 秀秋 秀秋 脇坂 秀秋 秀秋

どうつてことねえよ

いや、俺結構痛い

情けねえ事言つてんじゃねえよ

痛いものは痛いんだよ！

あの・・・ありがとうございました

礼を言うのはこちらの方だ。ありがとう

いえ、こちらこそ。

いや、こちらこそ

いえいえ、こちらこそ

いやいや、こちらこそ

いえいえいえ、こちらこそ

いやいやいや、こちらこそ

いえいえいえいえ、こちらこそ

いやいやいやいや、こちらこそ

もういいんじゃない？

小早川殿、これからどうなさるつもりですか

まだ考えてはいないですが・・・

では、我々と一緒に来ませんか？これから佐和山城をせめようと思つていたので

え？

敗れたといえ西軍派はまだ各地におります。西軍を裏切つた我々は少しでも多くの武功を

あげなければ認めてもらえませぬので

また、戦ですか・・・

戦のない世を作るために戦をしなければならぬ。それが武士の定めなのです

そうですね・・・そうですね

頼勝

殿お！

頼勝がジョージを連れてくる

秀秋
頼勝

見つかっちゃった

殿、何をやっているのですか！戦は終わっても後の処理が山積みなのですぞ！

影

それなのにこんな影武者もどきにさせるおつもりですか！

頼勝

うん。そうだよね
黙っておれ！あ・・・これはね皆様、此度の戦小早川への加勢、感謝いたします

小川

いや、こちらこそ

頼勝

いえいえ、こちらこそ

小川

いやいや、こちらこそ

朽木

だからもういいって！
頼勝、改めて紹介する。わしの友だ

秀秋

友・・・殿に友が出来たのですか

頼勝

それでな、これからのことなのだが、一緒に佐和山城を攻めようと思う

秀秋

小早川殿・・・
お主らや家族のためにも、名をあげなければならぬからな

赤座

殿・・・成長なさいましたな・・・
うむ。成長期じゃからな

脇坂

そうと決まればさつさと行こうじゃねえか
そうだな

頼勝
秀秋
頼勝
秀秋
頼勝

わかりました。ではこちらも皆に伝えてまいります
ちよつと待つて
どうか下さいましたか？
やっばりさあ、別の城にしない？
殿おお！

暗転

弁士

この後、彼らはそれぞれ場所でそれぞれの人生を送るのであります。
小早川秀秋はと申しますと、たった3年後、謎の死を遂げるのであります
原因は不明

彼の死因については、はっきりとしたことがわかつておりません
気が狂ってしまったとか、暗殺されたとか、はたまた大谷吉継の呪いであるなど
説はいろいろありますがそれはまた別のお話
おっと、お時間が来てしまったようです。

いかがでしたでしょうか。これが劇団「」の関が原。
小早川の場合の解釈でございます。
ご静聴ありがとうございました。

（終）